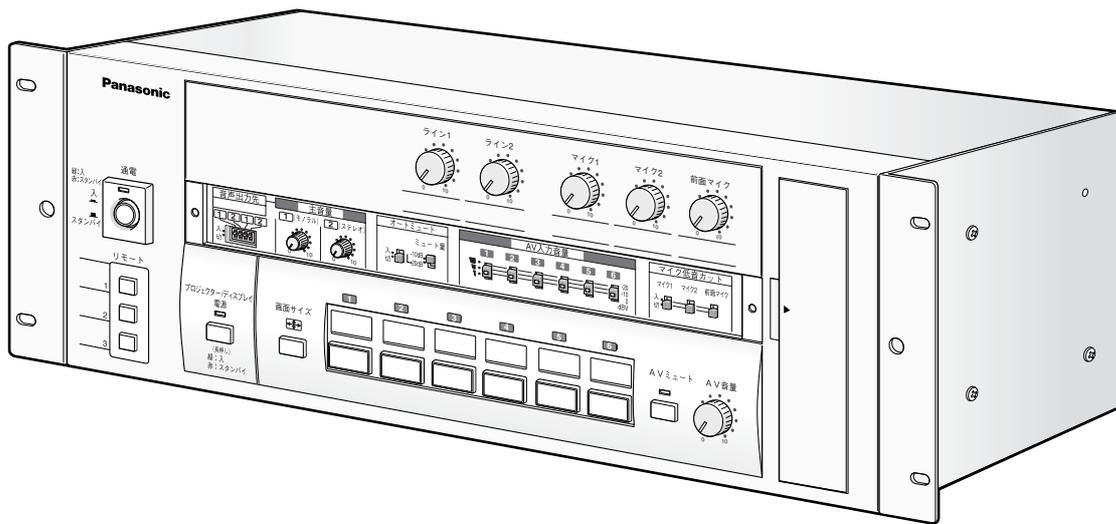


取扱説明書

工事説明付き

AVコントローラー

品番 **WZ-AV601**



保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」(6～7ページ)を必ずお読みください。
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

はじめに

商品概要

本機はAV機器の操作に必要な機能をまとめた操作パネルに、AVスイッチャーとオーディオミキサーを一体化した、AVコントローラーです。プロジェクターまたはディスプレイと接続することで、さまざまな資料を用いた説得力ある授業またはプレゼンテーションを行えます。

主な特長

6入力2分配出力のAVスイッチャーを搭載

AVスイッチャー部はRGB入力×3（2入力は色差ビデオ入力にも切換可）、ビデオ入力×3の6AV入力。PCや書画カメラ、ビデオデッキ、DVDプレーヤー、ハイビジョン機器まで、さまざまなAV機器を接続することができます。また2分配出力のため、モニターを接続して映写中の映像を同時に手元で確認することができます。

音声のオートミュート機能を搭載

オーディオミキサー部はマイク入力×3、ライン入力×2、ワイヤレスマイク入力×1を装備。マイク入力に反応してライン・AV入力音量を下げるオートミュート機能により、再生機器を止めることなくマイクロホンでのスピーチができます。

前面入力端子パネルを装備

AV入力端子×2（RGBおよびビデオ）とマイク入力端子×1を前面パネルに配置しており、持ち込みPCやビデオカメラ、マイクロホンの接続に便利です。

外部機器の制御機能を搭載

本機から映像表示機やシステム電源、スクリーン／カーテン／照明などの操作が可能です。RS-232C制御出力はパナソニック製プロジェクターまたはディスプレイに対応しているため、電源の入／切や入力切換に加えてシャッター／映像ミュート操作・画面サイズ切換が行えます。

奥行き160 mmのコンパクトサイズ

卓上設置やラックマウントはもとより、卓面埋め込みも可能です。

付属品をご確認ください

取扱説明書（本書） 1冊 保証書 1式

以下の付属品は取付工事に使用します。

電源コード 1本	ラック取付ねじ（M5×12 mm） 4本
誤操作防止アクリルカバー 1個	ゴム足 4個
アクリルカバー取付ねじ（M3×10 mm） 2本	機器名称表示ラベル 1シート
束線バンド 2本	

免責について

弊社はいかなる場合でも以下に関して一切の責任を負わないものとします。

- ①本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ②お客様の故意や誤使用、不注意による損害または本商品の破損など
- ③お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず、発生した一切の故障または不具合
- ④本商品の故障・不具合および設定・設置の誤りを含む何らかの理由または原因により、運用ができないことで被る不便・損害・被害
- ⑤第三者の機器と組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
- ⑥取付方法の不備など、本商品の不良によるもの以外の事故に対する不便・損害・被害
- ⑦登録した情報内容が何らかの原因により消失してしまうこと

もくじ

はじめに

はじめに

商品概要	2
主な特長	2
付属品をご確認ください	2
免責について	3
安全上のご注意	6
使用上のお願い	8
各部の名前と働き	9
前面	9
事前調整／設定部	10
後面	10

操作のしかた

操作のしかた

電源を入れる	12
AV機器を使用する	13
マイクロホンや音声再生機器を使用する	16
マイクロホンを使う	16
音声再生機器を再生する	16
電源を切る	17

工事説明

工事説明

設置上のお願い	18
設置のしかた	20
ラックへの取り付けかた	20
卓面埋め込みについて	20
ゴム足の取り付けかた	21
機器名称表示ラベルについて	21
接続のしかた	22
ケーブルについて	22
AV機器の接続方法	26
映像表示機の接続方法	26
音響機器の接続方法	28
ワイヤレス受信機の接続方法	29

必要なとき

音声入力拡張用ミキサーの接続方法	29
電源制御ユニットの接続方法	30
外部機器制御端子について	32
電源コードの固定のしかた	32
接続コードの束線のしかた	33
システム例	34
デジタルリンク対応プロジェクターの接続方法	36
調整／設定のしかた	37
AV入力端子2・3の信号形式の設定	37
マイク入力端子1の設定	37
事前調整／設定部の調整／設定	37
プロジェクター／ディスプレイ制御の設定.....	39
誤操作防止アクリルカバーの取り付け／取り外し....	40
動作確認の手順.....	41
<hr/>	
故障かな!?	42
外観寸法図	46
系統図	47
仕様	48
保証とアフターサービス	50

必要なとき

安全上のご注意

必ずお守りください

はじめに

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は絵表示の一例です。)

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

工事は販売店に依頼する  工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因になります。 ●必ず販売店に依頼してください。	雷のときは工事、配線をしない  火災や感電の原因になります。 禁止	不安定な場所に置かない  落下などで、けがの原因になります。 禁止
取り付けねじは、しっかりとしめる  落下などで、けがの原因になります。 ●取付工事は販売店に依頼してください。	異常があるときは、すぐ使用をやめる  煙が出る、臭いが出るなど、そのまま使用すると火災の原因になります。 ●直ちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。	機器の上や周囲に水などの入った容器を置かない  水などが中に入った場合、火災や感電の原因になります。 水ぬれ禁止 ●直ちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。
コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流100V以外での使用はしない  たこ足配線などで、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。 禁止	異物を入れない  水や金属が内部にはいると、火災や感電の原因になります。 禁止 ●直ちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。	分解しない、改造しない  火災や感電の原因になります。 分解禁止 ●修理や点検は、販売店にご連絡ください。

⚠ 警告

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない



ぬれ手禁止

感電の原因になります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

電源コードは、必ずプラグ本体を持って抜く



コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

- 抜くときは電源プラグを持って抜いてください。

電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない

(傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたりしない)



禁止

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

- コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

電源プラグのほこりなどは定期的にとる



プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

アースを確実に取り付ける



本機の電源プラグはアース端子付き2芯プラグです。アースは確実に行ってご使用ください。アースを取り付けないと、故障や漏電のときに、感電するおそれがあります。

- アース工事は販売店にご相談ください。(アース工事費は本製品の価格には含まれていません)

取り付けは、必ず本機の電源を切ってから行う



感電の原因になります。

⚠ 注意

コネクタの抜き差しは電源を切ってから行う



クリック音でスピーカーが破損する恐れがあります。

振動や強い衝撃を与えない



禁止

火災や感電、故障の原因になります。

湿気やほこりの多い場所に設置しない



禁止

火災や感電、故障の原因になります。

使用上のお願い

⚠ 警告 ⚠ 注意 に記載されている内容とともに以下の項目をお守りください。

使用上のお願い

使用電源は

AC 100 Vです。消費電力の大きな機器（複写機、空調機器など）と同じコンセントから電源をとらないでください。

付属の電源コードは本機専用です。

他の機器には使用しないでください。

使用温度範囲は

0℃～45℃です。この温度範囲以外で使用すると、内部の部品に悪影響を与え、故障または誤動作の原因となります。

本機は屋内専用です

屋外での使用はできません。

長時間日光のあたるところや、冷・暖房機の近くには設置しないでください。変形・変色または故障・誤動作の原因になります。また、水滴または水沫のかからない状態で使用してください。

花瓶などの液体の入ったものを機器の上に置かないでください。

設置場所は

以下の場所には設置しないでください。

- 直射日光の当たる場所や温風吹き出し口の近く
- 温度差の激しく結露しやすい場所
- ちゅう房など蒸気や油分の多い場所
- スピーカーやテレビ、磁石など、強い磁力を発生するものの近く

壁や天井などから10 cm以上離して設置してください。

電源スイッチについて

本機の電源スイッチは後面にあります。電源スイッチを「切」にしても、電源からは遮断されません。電源を遮断する場合は、コンセントから本機の電源プラグを抜いてください。また、電源制御ユニット使用時は電源制御ユニットの電源を切ってください。

電源スイッチを入／切するときは

アンプや周辺機器の電源を切ってから行ってください。クリックノイズが発生し、スピーカーや周辺機器を破損する恐れがあります。

雑音源は避ける

- トランシーバー、トランス、調光器、CRTモニターなどからできるだけ離してご使用ください。誘導ノイズを受ける可能性があります。
- 電灯線などの雑音源にケーブルを近づけると、ノイズが発生する場合があります。そのときは、雑音源からできるだけ離すように配線するか、本機の位置を変えてください。

操作するときは

スイッチやボタン、つまみには無理な力を加えないでください。

設定スイッチを切り換えるときは

音声にかかわる各種設定スイッチを切り換えるときは、必ず本機の電源を切るか主音量つまみを「0」にしてください。急激な音量変化やクリックノイズで、スピーカーを破損する恐れがあります。

長期間使用しない場合は

電源スイッチを「切」にして、電源プラグをコンセントから抜いてください。

結露について

結露は、故障の原因になりますので注意してください。以下のようなときに結露が発生しやすくなります。

- 湿度が高いとき
- 冷たい場所から、温度や湿度の高い場所に移動したとき

結露が発生した場合は、1～2時間程度放置して、結露がなくなったことを確認してから電源を入れてください。

お手入れは

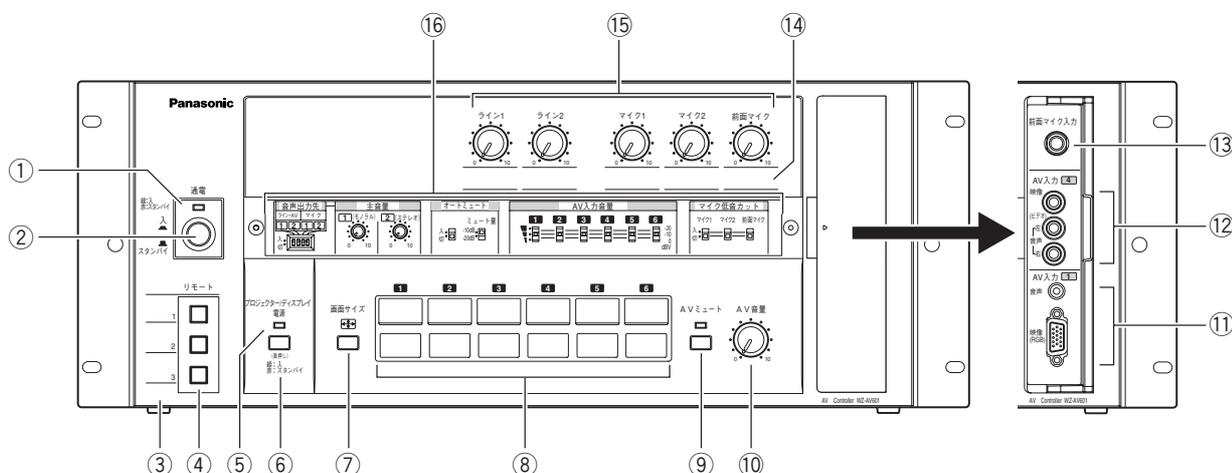
電源を切ってから行ってください。けがの原因になります。シンナーやベンジンなど揮発性のものをかけたり、使用したりしないでください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

汚れがひどいときは

水で薄めた台所用洗剤（中性）を柔らかい布にしみこませ、固くしぼってから軽くふいてください。そのあと、乾いた柔らかい布で、洗剤成分を完全にふき取ってください。

各部の名前と働き

前面



①通電表示灯（緑：入、赤：スタンバイ）

通電スイッチ②が「入」のときは緑色に、「スタンバイ」のときは赤色に点灯します。後面の電源スイッチ③が「切」になっているなど、電源が供給されていないときには消灯します。

②通電スイッチ【通電】（ 入、 スタンバイ）

本機の「通電/スタンバイ」を切り換えます。

③リモートボタン記名スペース

リモートボタン④に割り当てた機能を書き込んだラベルなどを貼り付けるためのスペースです。

④リモートボタン【リモート1～3】

電動式スクリーンの昇降などに使用します。各ボタンを押すと、後面の外部機器制御端子④に接続されている外部機器を制御できます。

⑤プロジェクター/ディスプレイ電源表示灯

映像表示機の電源状態を表示します。映像表示機が通電状態のときは緑色に、スタンバイ状態のときは赤色に点灯します。映像表示機が接続されていないまたは、電源が切られているときには消灯します。電源状態を判定している間やプロジェクターがランプ冷却中のときは、橙色に点滅します。

⑥プロジェクター/ディスプレイ電源ボタン

【プロジェクター/ディスプレイ電源】

映像表示機を通電状態またはスタンバイ状態にします。プロジェクター/ディスプレイ電源表示灯⑤が赤色に点灯しているときに2秒以上長押しすると、通電状態になります。緑色に点灯しているときに2秒以上長押しすると、スタンバイ状態になります。

⑦画面サイズ切換ボタン【画面サイズ 】

映像表示機上の画面サイズ（アスペクト比と大きさ）を切り換えます。ボタンを押すごとにサイズが切り換わります。最後に設定された画面サイズは、映像表示機または本機に記憶されます。映像表示機側で切り換えた場合も、本機に記憶されます。パラレルで制御している場合には、本ボタンは動作しません。

⑧AV入力選択ボタン【～】

使用するAV機器を1～6の中から1つ選択します。選択中のAV入力はボタン上部の表示灯が点灯します。付属の機器名称表示ラベルを表示灯表面にはり付けると、選択中の機器名を照光することができます。（機器名称表示ラベルについて [p.21](#) ページ）

⑨AVミュートボタン【AVミュート】

AV入力の映像・音声を一時的に非表示・消音状態にしたいときに使用します。ミュートが実行されると表示灯が点滅し、再度押しと解除されます。

⑩AV音量つまみ【AV音量】

AV入力選択ボタン⑧で選択したAV入力音声の音量を調整します。AV入力によって顕著な音量差がある場合には、事前調整/設定部⑩内の【AV入力音量】スイッチで、音量差を補正しておくことができます。

⑪AV入力端子1【AV入力 音声、映像（RGB）】

ノートPCやRGB出力のAV機器を接続します。

⑫AV入力端子4【AV入力 映像（ビデオ）、音声】

ビデオ出力のAV機器を接続します。

⑬前面マイク入力端子【前面マイク】

一時的に使用したいマイクロホンなどを接続します。

⑭音量つまみ記名スペース

各音声入力に接続された機器の名称を書き込んだラベルなどを貼り付けるためのスペースです。

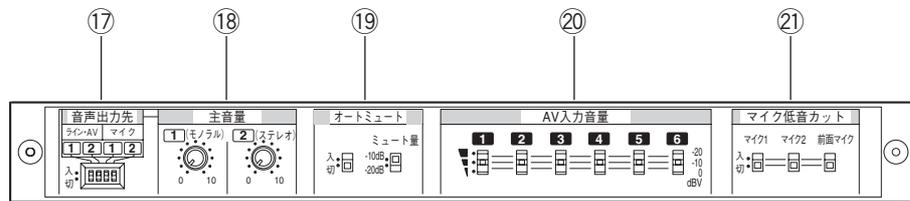
⑮音量つまみ【ライン1、ライン2、マイク1、マイク2、前面マイク】

各音声入力の音量を調整します。ワイヤレスマイクの音量は、マイクまたは受信機で調整してください。

⑯事前調整/設定部

工事のときに事前調整/設定をする機能を収納したスペースです。通常は付属の誤操作防止アクリルカバーを取り付けて使用してください。

事前調整 / 設定部



⑰音声出力先設定スイッチ【音声出力先】
 ライン・AV入力音声（ライン入力端子⑳とAV入力端子㉑㉒㉓㉔に入力された音声をミキシングしたものと、マイク入力音声（マイク入力端子㉕、前面マイク入力端子㉖、ワイヤレスマイク入力端子㉗に入力された音声をミキシングしたもの）の出力先を選択します。①を「入」にすると音声出力端子㉘の①から出力し、②を「入」にすると音声出力端子㉘の②から出力します。お買い上げ時はすべて「入」に設定されています。

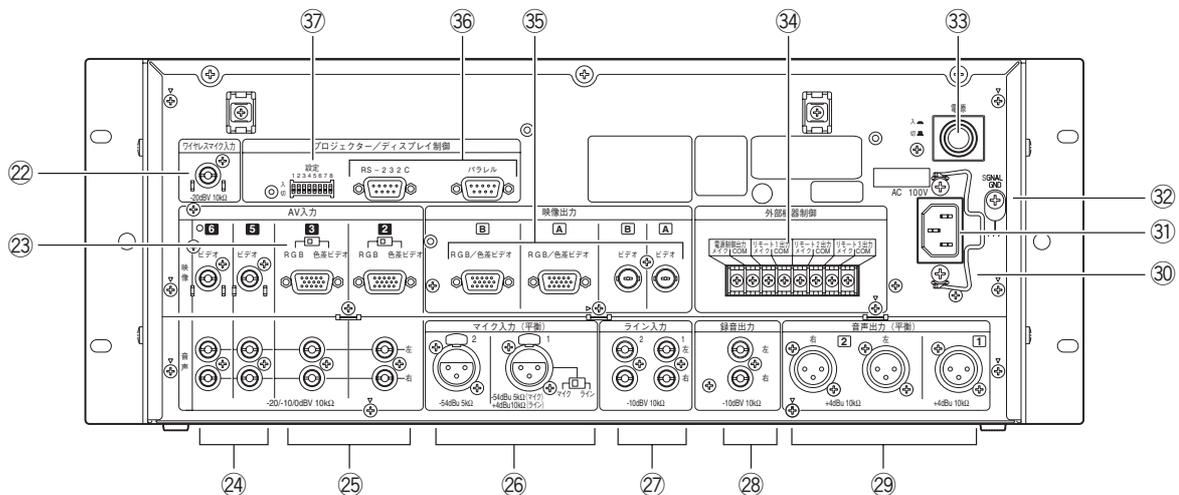
⑱音声出力主音量つまみ【主音量】
 音声出力端子㉘に出力する音声の音量を調整します。ステレオ出力の音声出力端子2は、1つのつまみで左右同時に調整されます。反時計方向に回しきり（「0」位置）で音量しぼりきり、時計方向に回しきり（「10」位置）で定格音量となります。1・2ともに、お買い上げ時は「0」の位置に設定されています。

⑲オートミュート設定スイッチ【オートミュート】
 「入」に設定したときは、マイク入力端子㉕、前面マイク入力端子㉖、ワイヤレスマイク入力端子㉗のいずれかに音声信号が入力されると、その期間だけライン入力端子㉘とAV入力端子㉑㉒㉓㉔に入力された音声信号が減衰します。ミュート量（減衰量）は「-10 dB」または「-20 dB」から選択できます。お買い上げ時は「切」と「-10 dB」に設定されています。

㉑AV入力音量スイッチ【AV入力音量】
 AV入力端子㉑㉒㉓㉔に入力された音声の音量を個別に調整します。接続した機器の出力音量に合わせて、「-20 dBV」、「-10 dBV」、「0 dBV」から設定できます。お買い上げ時はすべて「-10 dBV」に設定されています。

㉒マイク入力 低音カットスイッチ【マイク低音カット】
 マイク入力端子㉕、前面マイク入力端子㉖に入力された音声の低音をカットしてスピーチに適した音質にします。お買い上げ時はすべて「切」に設定されています。

後面



㉒ワイヤレスマイク入力端子【ワイヤレスマイク入力】
 ワイヤレスマイク受信機の音声ミキシング出力を接続します。

㉓AV入力2・3 信号形式設定スイッチ【AV入力2、3】（RGB/色差ビデオ）
 AV入力端子2・3㉓に接続したAV機器の出力信号形式に合わせて、「RGB」または「色差ビデオ」を選択します。お買い上げ時は「RGB」に設定されています。

②④AV入力端子5・6

[AV入力5、6 映像 (ビデオ)、音声]
ビデオ出力のAV機器を接続します。

②⑤AV入力端子2・3

[AV入力2、3 映像 (RGB/色差ビデオ)、音声]
RGB出力または色差ビデオ出力のAV機器を接続します。

②⑥マイク入力端子 [マイク入力1、2]

マイクロホンを接続します。マイク入力1はスイッチの切り換えによって、マイクロホンの増設用オーディオミキサーのライン出力も接続することができます (お買い上げ時は「マイク」に設定されています)。

②⑦ライン入力端子 [ライン入力1、2]

CDプレーヤーやMDプレーヤーなどの音声再生機器を接続します。

②⑧録音出力端子 [録音出力]

カセットデッキなどの録音用機器を接続します。音声出力端子②⑧の①②がミキシングされて出力されます。録音レベルは録音機器側で調整してください。音声出力主音量つまみ①⑧は本出力に対しては無効です。

②⑨音声出力端子 [①、②]

パワーアンプを接続します。AV入力選択ボタン⑧で選択したAV入力の音声信号や、マイク入力端子①②②⑥、ライン入力端子②⑦に接続された機器の音声信号がミキシングされて出力されます。

③⑩電源コードストッパー

電源コードが容易に抜けないように固定します。

③⑪電源入力端子 [AC 100 V]

付属の電源コードを接続します。接続後は電源コードストッパー③⑩でコードを固定してください。(電源コードの固定のしかた ③⑩32ページ)

③⑫SIGNAL GND端子 [SIGNAL GND]

他機器との電位差をなくすため、各機器のSIGNAL GNDと接続します。

③⑬電源スイッチ [電源] (入、切)

本機の電源を入/切します。

③⑭外部機器制御端子 [外部機器制御]

電源制御出力端子は通電スイッチ②に、リモート出力端子はリモートボタン④に連動してメイクします。各出力は独立回路になっています。

③⑮映像出力端子 [A、B RGB/色差ビデオ、ビデオ]
AV入力選択ボタン⑧で選択したAV入力の映像信号が出力されます。

AV入力選択ボタン1~3選択時はRGB/色差ビデオ端子から、AV入力選択ボタン4~6選択時はビデオ端子から出力します。本機はAV入力選択に応じて映像表示機の入力切換制御を行います。それぞれ2分配出力になっており、もう一方にはモニター用のディスプレイなどを接続します。

③⑯プロジェクター/ディスプレイ制御端子 [プロジェクター/ディスプレイ制御 RS-232C、パラレル]

映像表示機に接続して各種制御を行います。プロジェクター/ディスプレイ制御設定スイッチ③⑰で、制御対象映像表示機の種類や、制御方法などを事前設定します。お買い上げ時は「プロジェクター」「RS-232C制御」に設定されています。

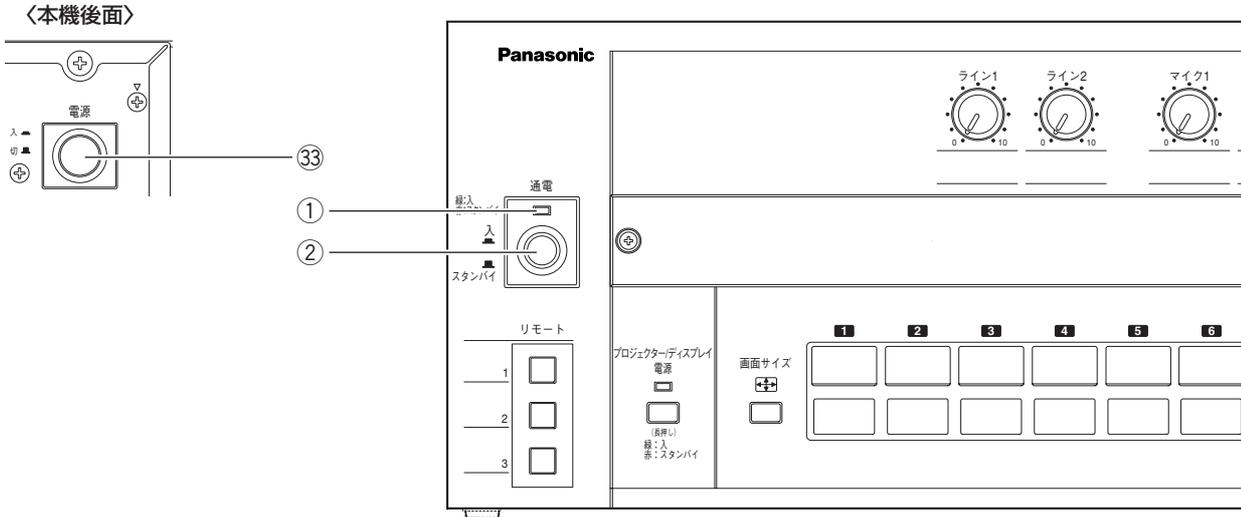
③⑰プロジェクター/ディスプレイ制御設定スイッチ [設定]

映像表示機の制御に関する各種事前設定を行います。お買い上げ時はすべて「切」に設定されています (プロジェクター/ディスプレイ制御の設定 ③⑰39ページ)。

電源を入れる

ここでは本機の基本操作について説明します。あらかじめすべての機器が接続され、事前の調整／設定が完了している必要があります（調整／設定のしかた 37ページ）。通常アクリルカバー内部は使用しません。操作は必ず、各音量つまみを「0」にしてから行ってください。

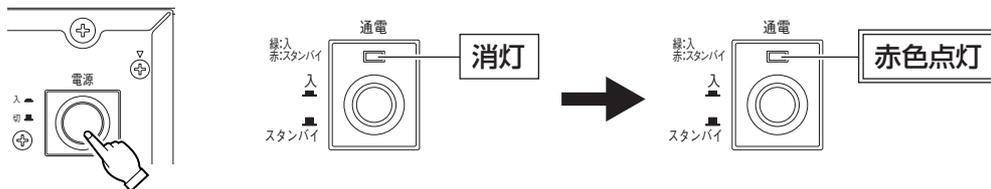
操作のしかた



1 電源スイッチ③を「入」にする。

→通電表示灯①が赤色点灯し、本機はスタンバイ状態になります。

電源制御ユニットを使用して本機の電源を制御している場合、この時点では電源が供給されず、通電表示灯①が消灯のままになります。



2 通電スイッチ②を「入」にする。

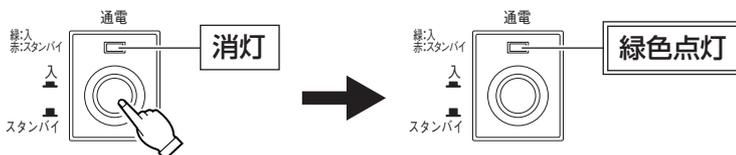
→通電表示灯①が赤色点灯から緑色点灯に変わり、本機は通電状態になります。

通電スイッチでシステムの電源制御を行っているときは、システム全体に電源が供給されます。

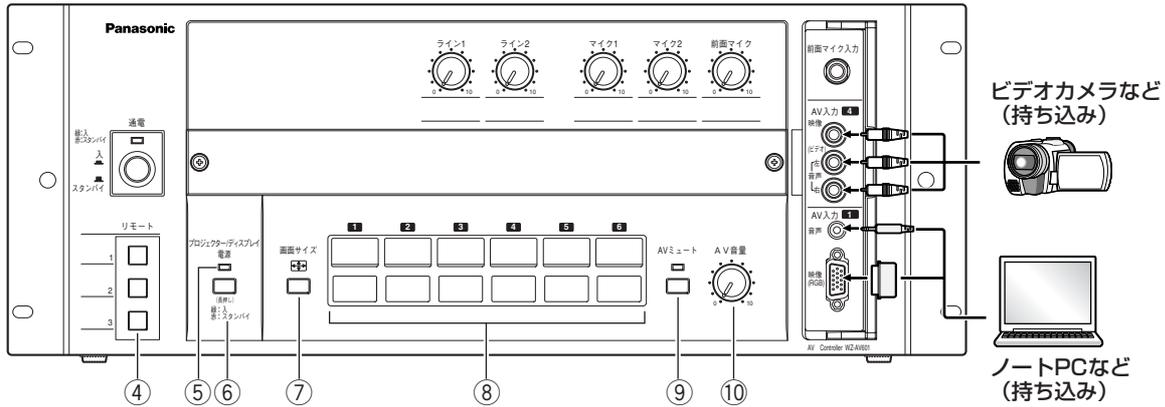


メモ

- 電源制御ユニットで本機への電源供給を制御することも可能です。
その場合は電源スイッチを常時「入」にして、通電スイッチのみで電源を入れることができます。



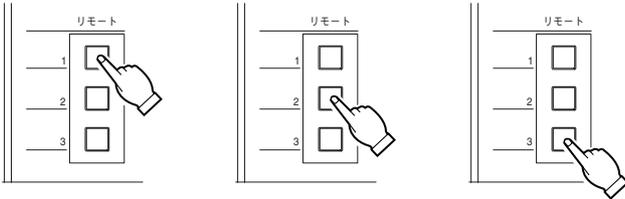
AV機器を使用する



操作のしかた

1 リモートボタン④を押して、スクリーン、照明、カーテンなどの準備を行う。

スクリーンの昇降や照明の入/切などをリモートボタン④に割り当てている場合は、該当のボタンを押します。

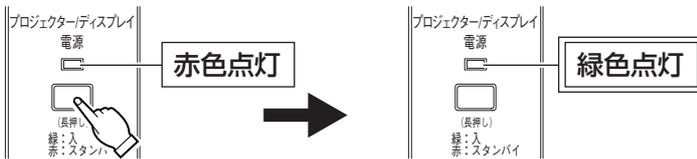


メモ

- リモートボタンは、本機の電源の入/切に関係なく、操作できます。

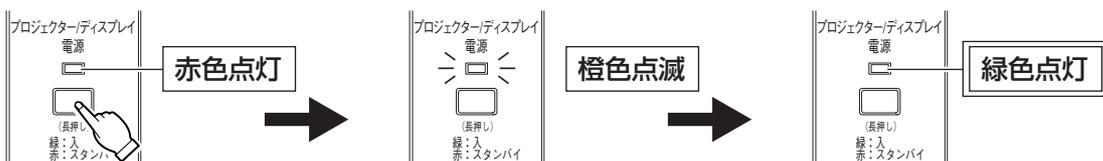
2 プロジェクター/ディスプレイ電源ボタン⑥を、2秒以上長押しして、映像表示機の電源を入れる。

→プロジェクター/ディスプレイ電源表示灯⑤が赤色点灯のときに行うと、映像表示機の電源が入り、緑色点灯に変わります。



メモ

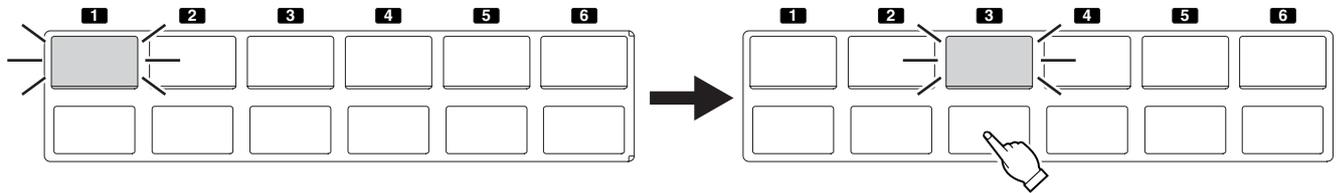
- RS-232C制御の場合、映像表示機の状態確認期間中は橙色点滅します。



AV機器を使用する（つづき）

3 AV機器を再生する。

- [1] AV入力選択ボタン⑧で、再生するAV機器を選択します。
→選択されたAV入力選択ボタン上部の表示灯が点灯します。



メモ

- 映像表示機側で入力が切り換えられると、AV入力選択表示灯が全消灯になる場合があります。このときは、AV入力映像・音声とも無出力となります。映像表示機側で元の入力に戻すか、本機のAV入力選択ボタンを再選択してください。

- [2] AV機器の電源を入れて、再生します。
→映像表示機に映像が映し出されます。

- [3] AV音量つまみ⑩を徐々に上げて、適切な音量に調整します。



注意

- AV機器の接続、再生メディアの交換、AV入力選択ボタンの操作をするときには、必ず音量つまみをいったん「0」にしてください。
ノイズや顕著な音量差などでスピーカーの破損や耳を痛める要因となります。

●映像の画面サイズを変えるには？

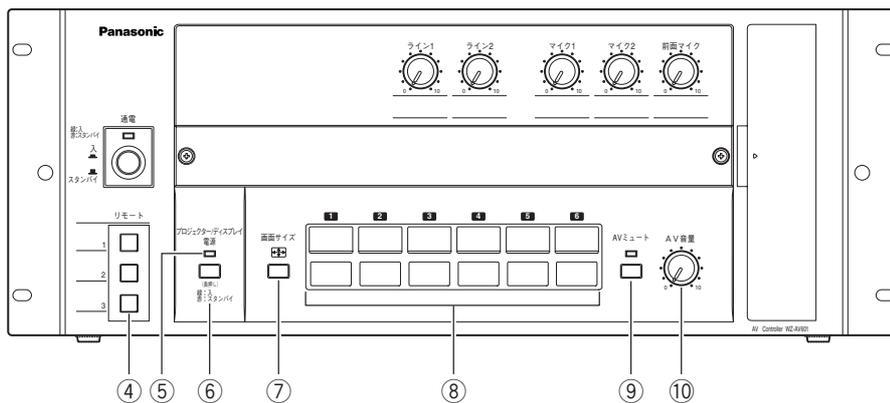
画面サイズ切換ボタン⑦を押します。
ボタンを押すごとに画面サイズが切り換わります。最後に設定した画面サイズは、AV入力を切り換えても記憶されます。

画面サイズ



メモ

- 本機能は、映像表示機の画面サイズ設定を切り換えるものです。
映像表示機の画面サイズ設定が「AUTO」のときは、画面サイズ切換ボタンを押しても、見かけ上の画面サイズが変わらない場合があります。また、映像信号によっては設定できない画面サイズがあります。詳しくは映像表示機の取扱説明書をお読みください。
- プロジェクターの「H FIT」「V FIT」「HV FIT」は本機では設定・記憶できません。
これらを選択する場合は、そのつどプロジェクター側で設定してください。
- パラレル制御の場合は本機能は動作しません。

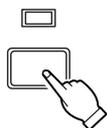


●映像・音声を一時的に消すには？

AVミュートボタン⑨を押します。

→表示灯が点滅し、映像・音声がミュート（遮断）されます。再度押すと解除され、表示灯は消灯します。

AVミュート



AVミュート



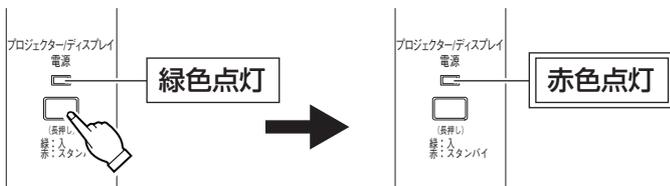
メモ

- 映像表示機がプロジェクターの場合はプロジェクターのシャッター機能を、ディスプレイの場合は映像ミュート機能を動作させます（本機の映像出力は遮断されません）。
- RS-232C制御の場合、プロジェクター側でシャッター機能を操作すると本機は連動して音声をミュートします。

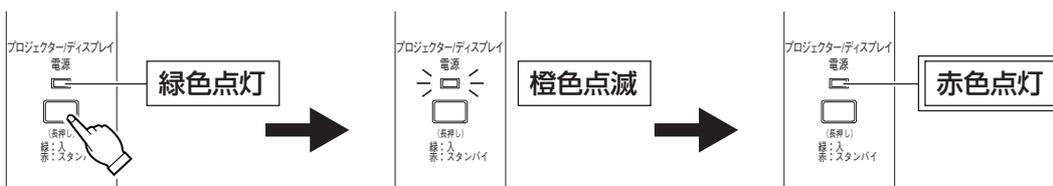
4 プロジェクター／ディスプレイ電源ボタン⑥を2秒以上長押しして、映像表示機の電源を切る。

→プロジェクター／ディスプレイ電源表示灯⑤が緑色点灯のときに行うと、映像表示機がスタンバイ状態になり、表示灯が赤色点灯に変わります。ただし映像表示機がプロジェクターの場合はランプ冷却が始まり、ランプ冷却期間中は表示灯が橙色に点滅します。ランプ冷却が終了すると、表示灯が赤色点灯に変わります。

【ディスプレイの場合】



【プロジェクターの場合】



5 リモートボタン④を押して、スクリーン、照明、カーテンなどを元に戻す。

メモ

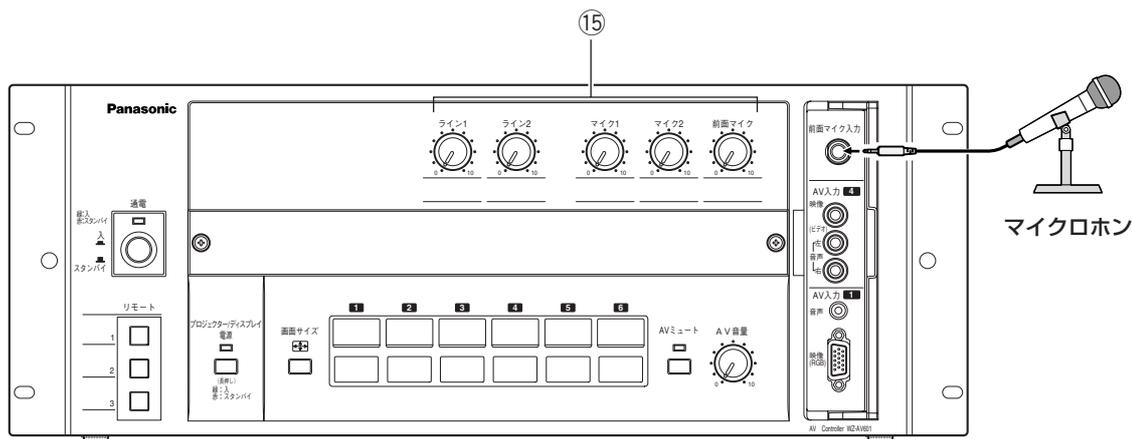
- リモートボタンは、本機の電源の入／切に関係なく、操作できます。

マイクロホンや音声再生機器を使用する

⚠️ 注意

- マイクや音声再生機器を接続するときは、必ず音量つまみをいったん「0」にしてください。ノイズでスピーカーの破損や耳を痛める恐れがあります。

操作のしかた



マイクロホンを使う

マイクロホンに向かって話しながら、該当する音量つまみ⑮を徐々に右に回して、適切な音量に調整します。

メモ

- ワイヤレスマイクを使用する場合は、ワイヤレス受信機またはワイヤレスマイク側で、音量を調整します。

音声再生機器を再生する

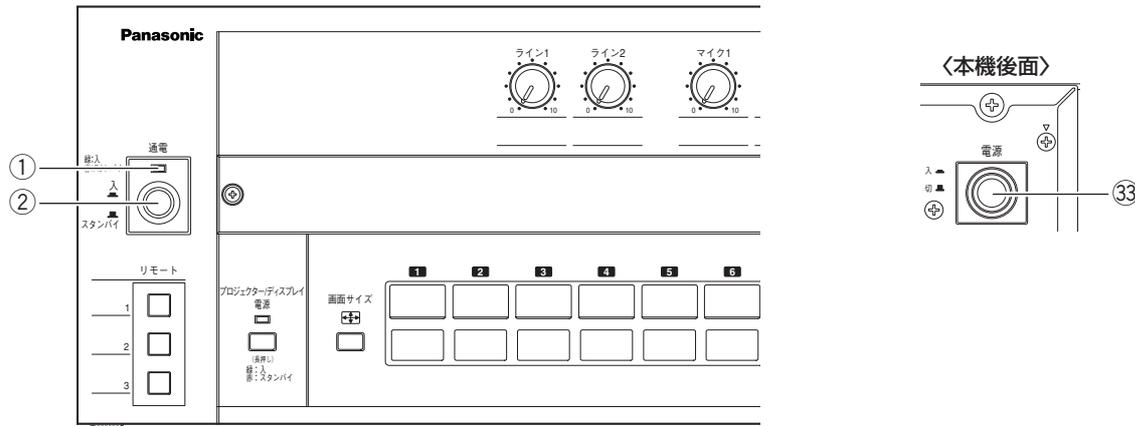
音声再生機器の電源を入れて再生をしてから、該当する音量つまみ⑮を徐々に右に回して、適切な音量に調整します。

メモ

- 本機のオートミュート機能が「入」に設定されている場合は、マイクロホンで話している間だけ、音声再生機器とAV機器の音量が減衰します。

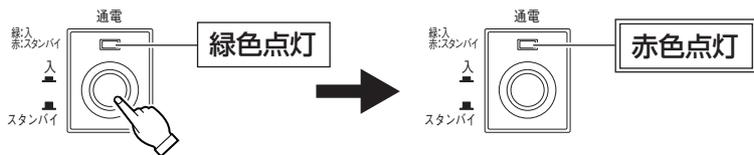
電源を切る

操作は必ず、各音量つまみを「0」にしてから行ってください。



1 通電スイッチ②を「切」にする。

→通電表示灯①が緑色点灯から赤色点灯に変わり本機はスタンバイ状態になります。
通電スイッチによりシステムの電源制御を行っている場合は、この時点でシステム全体の電源が切れ、通電表示灯①が消灯します。



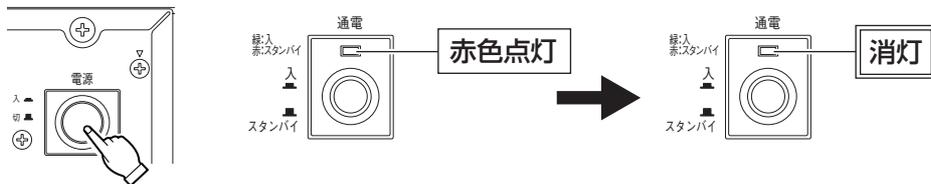
メモ

- 映像表示機の電源を入れたまま本機の通電スイッチ②を「切」にすると、
【ディスプレイの場合】
通電表示灯が緑色点灯から橙色点滅に変わり、ディスプレイがスタンバイ状態になります。
約5秒後に通電表示灯が赤色点灯に変わり、本機はスタンバイ状態になります。
【プロジェクターの場合】
通電表示灯が緑色点灯から橙色点滅に変わり、プロジェクターのランプ冷却が始まります。
プロジェクターのランプ冷却が終了すると（約3分）、通電表示灯が赤色点灯に変わり、本機はスタンバイ状態になります。



2 電源スイッチ③③を「切」にする。

→通電表示灯①が赤色点灯から消灯に変わり、本機の電源が切れます。



!!重要!!

- システムの電源制御を行っている場合、通電表示灯が橙色点滅中は本機の電源を切らないでください。
プロジェクターの電源が切れ、ランプ冷却が強制終了することでランプ寿命を縮める原因になります。

設置上のお願い

設置工事は電気設備技術基準に従って実施してください。

⚠ 警告

- 工事は必ず販売店に依頼してください。
工事を行う前に、接続する機器の電源スイッチを「切」にしてください。また、「安全上のご注意」をよく読んでその指示にしたがってください。接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。

本機は屋内専用です

屋外での使用はできません。

長時間日光のあたるところや、冷・暖房機の近くには設置しないでください。変形・変色または故障・誤動作の原因になります。また、水滴または水沫のかからない状態で使用してください。

付属の電源コードは本機専用です。

他の機器には使用しないでください。

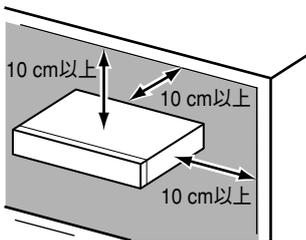
以下のような場所での設置および使用はできません

- 直射日光の当たる場所や温風吹き出し口の近く
- 湿気やほこり、振動の多い場所
- 温度差の激しく結露しやすい場所
- ちゅう房など蒸気や油分の多い場所
- スピーカーやテレビ、磁石など、強い磁力を発生するものの近く

ラックマウント・卓面埋め込み設置を行うときは

ラックにマウントする場合や卓面埋め込み設置する場合は、ラックまたは卓内の温度が45℃以上にならないようにしてください。内部部品に悪影響を与え故障の原因となります。

据え置きの場合は、壁や天井などから10 cm以上離して設置してください。



雑音源は避ける

- トランシーバー、トランス、調光器、CRTモニターなどからできるだけ離して使用してください。誘導ノイズを受ける可能性があります。
- 電灯線などの雑音源にケーブルを近づけると、ノイズが発生する場合があります。そのときは、雑音源からできるだけ離すように配線するか、本機の位置を変えてください。

静電気について

静電気による破損を防止するために、作業をはじめる前に本機以外の金属部に手を触れ、人体に帯電している静電気を放電してください。

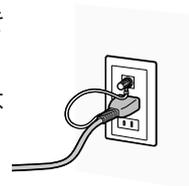
取付ねじはしっかりと締める

工事で使用する取付ねじは、指定の締付トルクに従い、しっかりと締めてください。インパクトドライバーはねじを破損させる場合がありますので、使用しないでください。

アース（接地）について

ご使用前に、アースが正しく確実に取り付けられているか確認してください。アース端子付きコンセントを使用する場合は、接地抵抗値（100Ω以下）を確認してください。

アース接続は、必ず電源プラグを主電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続をはずす場合は、必ず電源プラグを主電源から切り離してから行ってください。



使用電源は

AC100 Vです。消費電力の大きな機器（複写機、空調機器など）と同じコンセントから電源をとらないでください。

電源の接続について

本機は電源スイッチを「切」にしただけでは電源は遮断されません。電源コードは、必ず遮断装置を介した次のいずれかの方法で接続してください。

- 電源コンセントやブレーカーの近くに設置し、電源プラグを介して接続する。
- 3.0 mm以上の接点距離を有する分電盤のブレーカーに接続する。ブレーカーは、保護アース導体を除く電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。
- 電源制御ユニット（WU-L61またはWU-L67）を介して接続する。

アンバランス（不平衡）接続の場合は

シャーシ電位の違いによる誘導ノイズを受けやすくなりますので、各機器間のシャーシ電位を合わせて使用してください。

- 各機器間の電源位相を合わせる
- 電源系統を統一する
- 各機器のグラウンド端子またはシャーシを接続する

コンデンサマイク使用時は

外部電源をご用意ください。また、本機にファンタム電圧がかからない状態でお使いください。

設定スイッチを切り換えるときは

音声にかかわる各種設定スイッチを切り換えるときは、必ず本機の電源を切るか主音量つまみを「0」にしてください。急激な音量変化やクリックノイズで、スピーカーを破損する恐れがあります。

設置のしかた

本機は、ラックまたは卓に取り付けて使用できます。

ラックへの取り付けかた

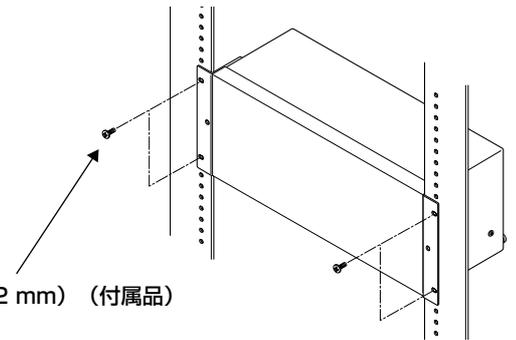
本機を取り付けるラックは、次のいずれかを使用してください。

- スタンダードラック：WU-RS80 収納ユニット数29U（当社製）※従来品のWU-RS71もお使いいただけます。
- ロングラック：WU-RL85 収納ユニット数41U（当社製）※従来品のWU-RL76もお使いいただけます。
- EIA規格相当品：EIA19型、奥行き450 mm以上のもの

本機をラックに取り付けるときは、付属のラック取付ねじ（M5×12 mm）4本で、確実に固定します。ラック取付ねじ（M5×12 mm）の締付トルクは、157～177 N・cm {16～18 kgf・cm} です。

メモ

- 他社製ラックに取り付ける場合は、付属のラック取付ねじ（M5×12 mm）4本または取り付けを行うラック側で指定のねじを用意してください。



ラック取付ねじ（M5×12 mm）（付属品）

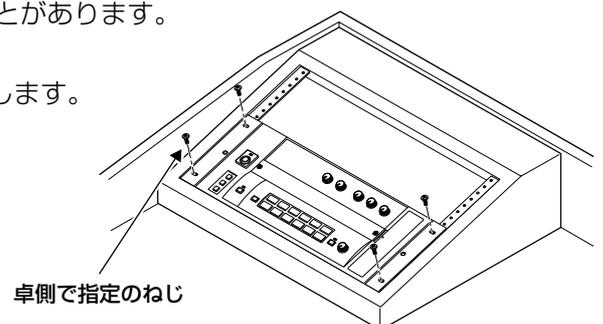
!!重要!!

- 本機は発熱量の多い機器（電力増幅ユニットやパワーアンプなど）の近くに設置しないでください。やむをえず、近くに設置する場合は、上下に1U（44 mm）以上の間隔をあけてください。
- ラックは通気性の良い場所に設置してください。ラック内に熱がこもるときはラック内の温度が45℃以上にならないように換気対策を行ってください。

卓面埋め込みについて

本機を卓面に埋め込んで使用するときには、卓の本機を取り付けるためのねじ穴の間隔がEIA規格相当品であることを確認してください。取付穴が合わず、卓に取り付けできないことがあります。

本機を卓に取り付け、卓側で指定の取付ねじ4本で、確実に固定します。取付ねじの締付トルクは、卓側の指示に従ってください。

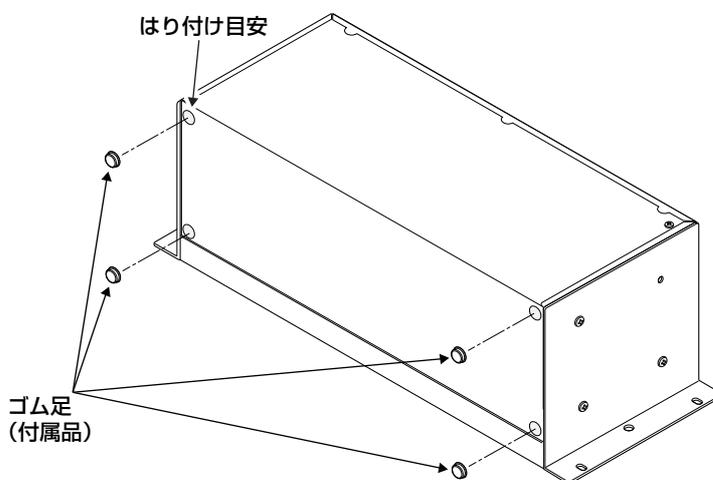


!!重要!!

- 卓は通気性の良い場所に設置してください。卓内に熱がこもるときは卓内の温度が45℃以上にならないように扉をはずすなどの換気対策を行ってください。

ゴム足の取り付けかた

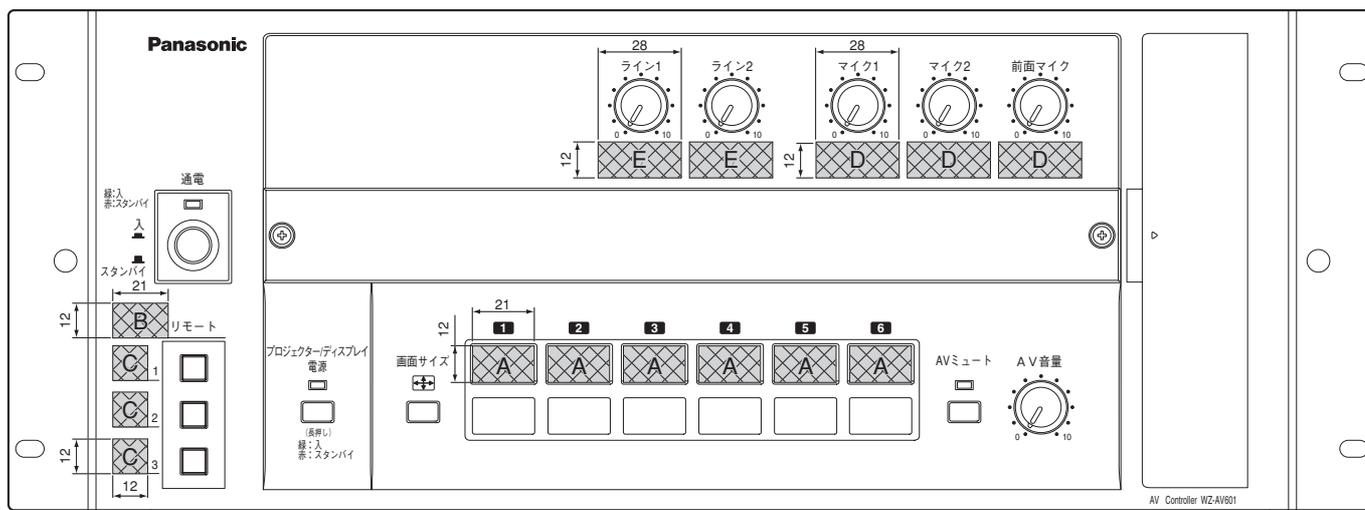
本機を卓面に置いて使用するときには、卓面への傷を防止するため、本機の底面にあるはり付け目安に合わせて付属のゴム足4個（付属品）をはり付けて使用してください。



機器名称表示ラベルについて

機器名称表示ラベルのA、B、C、D、Eから該当する名称のラベルを以下のようにはり付けます。

〈本機前面〉



機器名称表示ラベル

A ----	PC1	PC2	書画カメラ	ビデオカメラ	BD1	BD2
B ----	カーテン	スクリーン	照明			
C ----	▲	■	▼			
D ----	予備マイク					
E ----	CD	BGM				

接続のしかた

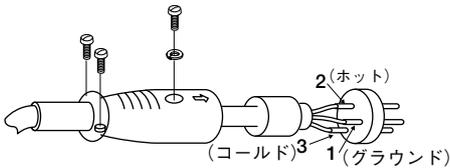
ケーブルについて

周辺機器と本機を接続するときは、以下のケーブルを使用します。必要に応じて用意してください。周辺機器側の端子については各機器の取扱説明書をお読みください。

音声用

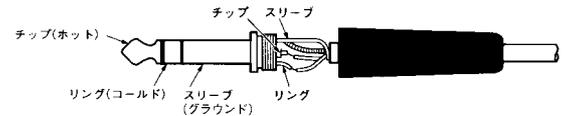
XLR 3ピン（オス、XLR-3-12C相当）コネクター付きケーブル

マイク入力端子1・2との接続に使用します。



大型複式プラグ付きケーブル

前面マイク入力端子との接続に使用します。

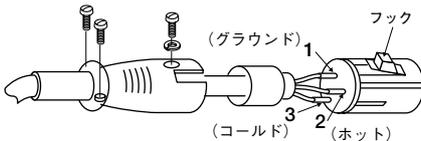


- マイク入力端子に接続するケーブルは必ずシールド線を使用してください。また配線距離が長くなるときは、より誘導ノイズに強い4芯撚りシールド線（4E6など）を使用してください。
- 接触不良によるノイズを避けるために、金メッキプラグを使用してください。
- 不平衡出力機器を接続する場合には、配線距離は10 m以内を目安に配線してください。平衡出力機器を接続する場合にも、配線距離は50 m以内を目安にしてください。
- スピーカー線に近づけないでください。機器の動作が不安定になり、発振する場合があります。

XLR 3ピン（メス、XLR-3-11C相当）コネクター付きケーブル

音声出力端子1・2との接続に使用します。

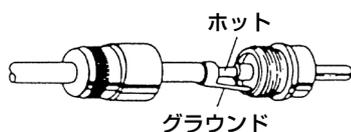
- 必ずシールド線を使用してください。また配線距離が長くなるときは、より誘導ノイズに強い4芯撚りシールド線を使用してください。



RCAピンプラグ付きオーディオケーブル

ライン入力端子1・2、AV入力2～6の音声入力端子、ワイヤレスマイク入力端子、録音出力端子との接続に使用します。

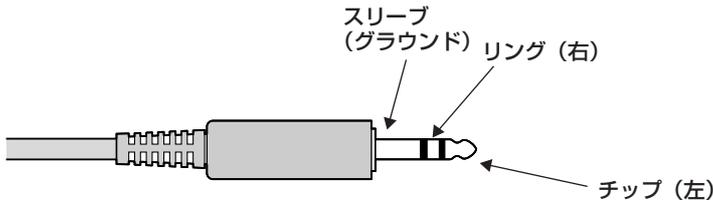
- 接続するAV機器に付属または市販の接続コードを使用してください。
- 製作される場合は、必ずシールド線を使用してください。
- 不平衡入出力のため、配線距離は10 m以内を目安に配線してください。



φ3.5 mmステレオミニプラグ付きケーブル

前面AV入力1の音声入力端子との接続に使用します。

- 接続するAV機器に付属または市販の接続コードを使用してください。
- 製作される場合は、必ずシールド線を使用してください。
- 配線距離が長くなる時は、より誘導ノイズに強い4芯撚りシールド線をお使いください。
- 接触不良によるノイズを避けるために、金メッキプラグを使用してください。
- 不平衡入力のため、配線距離は10 m以内を目安に配線してください。



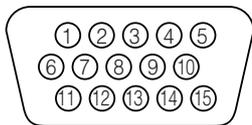
映像用

VGAケーブル [ミニDサブ15ピン (オス) コネクタ付きケーブル]

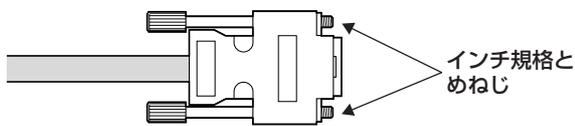
AV入力1～3の映像入力端子および、映像出力端子 (RGB/色差ビデオ) との接続に使用します。

- 接続するAV機器および映像表示機の仕様 (コンポーネント (色差) ビデオ端子またはD端子) にあわせて製作してください。AV機器および映像表示機側の端子については各機器の取扱説明書をお読みください。
- 1～3ピンの映像信号の配線には、特性インピーダンス75 Ωの同軸ケーブルを使用してください。
- 配線距離が長くなる場合 (10 m以上) は映像信号の劣化を避けるために、75 ΩBNCコネクタで変換して線径の太い同軸ケーブル (5CFBなど) で配線するか、市販の変換器で延長してください。

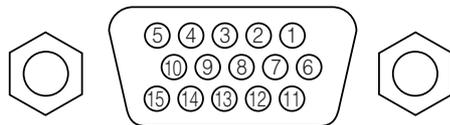
ケーブル仕様



ミニDサブ15ピン(オス)
ピン配列



本機端子仕様

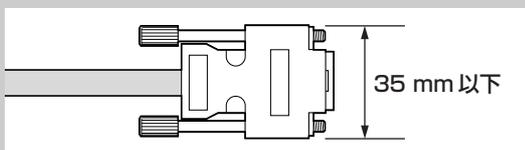


ミニDサブ15ピン(メス)
ピン配列

ピン番号	信号名
1	R (色差時: Pr/Cr)
2	G/G・SYNC (色差時: Y)
3	B (色差時: Pb/Cb)
4	無接続
5	GND
6	GND (Rシールド用)
7	GND (Gシールド用)
8	GND (Bシールド用)
9	無接続
10	GND
11	無接続
12	無接続
13	HD/SYNC
14	VD
15	無接続

!!重要!!

- AV入力2・3には横幅35 mm以下のコネクタを使用してください。コネクタが大きいと片方しか挿入できないことがあります。

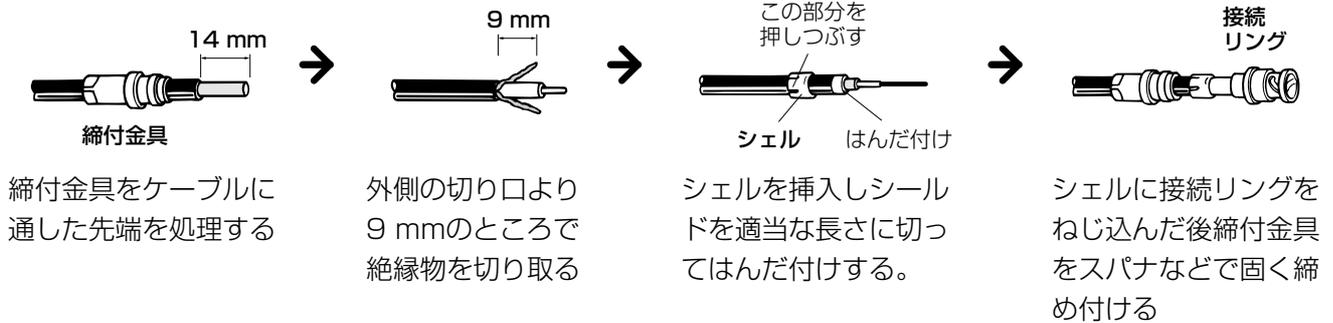


接続のしかた (つづき)

BNCコネクター付き映像ケーブル

映像出力端子 (ビデオ) との接続に使用します。

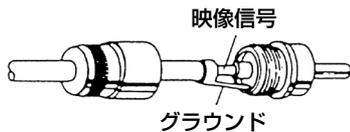
- 市販のBNCケーブルを使用してください。
- 製作される場合は特性インピーダンス75 Ωの同軸ケーブル (3C2V、5C2Vなど) を使用してください。
- 配線距離が長くなる場合 (10 m以上) は映像信号の劣化を避けるために、線径の太い同軸ケーブル (5CFBなど) で配線するか、市販の変換器で延長してください。



RCAピンプラグ付き映像ケーブル

AV入力4~6の映像入力端子との接続に使用します。

- 接続するAV機器に付属または市販の接続コードを使用してください。
- 製作される場合は、特性インピーダンス75 Ωの同軸ケーブル (3C2V、5C2Vなど) を使用してください。



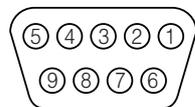
制御用

RS-232Cケーブル [Dサブ9ピン (メス) コネクター付きケーブル]

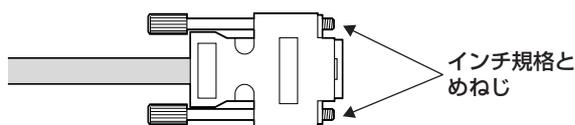
プロジェクター/ディスプレイ制御端子「RS-232C」との接続に使用します。

- 市販のRS-232Cケーブルを使用してください。プロジェクター/ディスプレイの仕様に合わせて、ケーブルの種類 (ストレートまたはクロス) とコネクターの種類 (オスまたはメス) を選んでください。
- 配線距離が長くなる場合 (10m以上) は市販の変換器 (RS-422変換など) で延長してください。

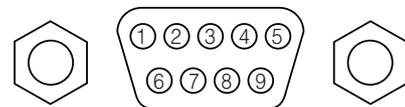
ケーブル仕様



Dサブ9ピン(メス)
ピン配列



本機端子仕様



Dサブ9ピン(オス)
ピン配列

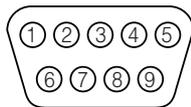
ピン番号	信号名	機能
1		無接続
2	RXD	受信入力
3	TXD	送信出力
4		短絡
5	GND	
6		短絡
7		
8		
9		無接続

パラレル制御ケーブル [Dサブ9ピン (オス) コネクター付きケーブル]

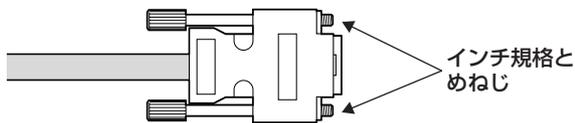
プロジェクター／ディスプレイ制御端子「パラレル」との接続に使用します。

- 入力選択は択一動作となります。
- プロジェクター／ディスプレイ制御設定スイッチ⑳の5番（制御対象）の設定によって動作が異なります。プロジェクターの場合は、プロジェクター／ディスプレイ制御設定スイッチ⑳の6番の設定により、3・4ピンのどちらかが動作します。ディスプレイの場合は、AV入力2・3の信号形式設定スイッチの設定が4ピン出力に反映されます。

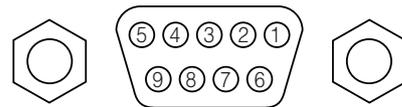
ケーブル仕様



Dサブ9ピン(オス)
ピン配列



本機端子仕様



Dサブ9ピン(メス)
ピン配列

● プロジェクターの場合

ピン番号	機能	動作
1	グラウンド	—
2	プロジェクター電源 入／切	「切」時：オープン 「入」時：L (ロー)
3	RGB1入力選択	動作時L (ロー)
4	RGB2入力選択	動作時L (ロー)
5	ビデオ入力選択	動作時L (ロー)
6	無接続	—
7	無接続	—
8	シャッター 入／切	「切」時：オープン 「入」時：L (ロー)
9	グラウンド	—

● ディスプレイの場合

ピン番号	機能	動作
1	グラウンド	—
2	ディスプレイ電源 入／切	「切」時：オープン 「入」時：L (ロー)
3	PC入力選択	動作時：L (ロー)
4	RGB／色差ビデオ選択	「RGB」時：オープン 「色差」時：L (ロー)
5	ビデオ入力選択	動作時L (ロー)
6	無接続	—
7	無接続	—
8	映像ミュート 入／切	「切」時：オープン 「入」時：L (ロー)
9	グラウンド	—

丸端子付きケーブル

外部機器制御端子との接続に使用します。

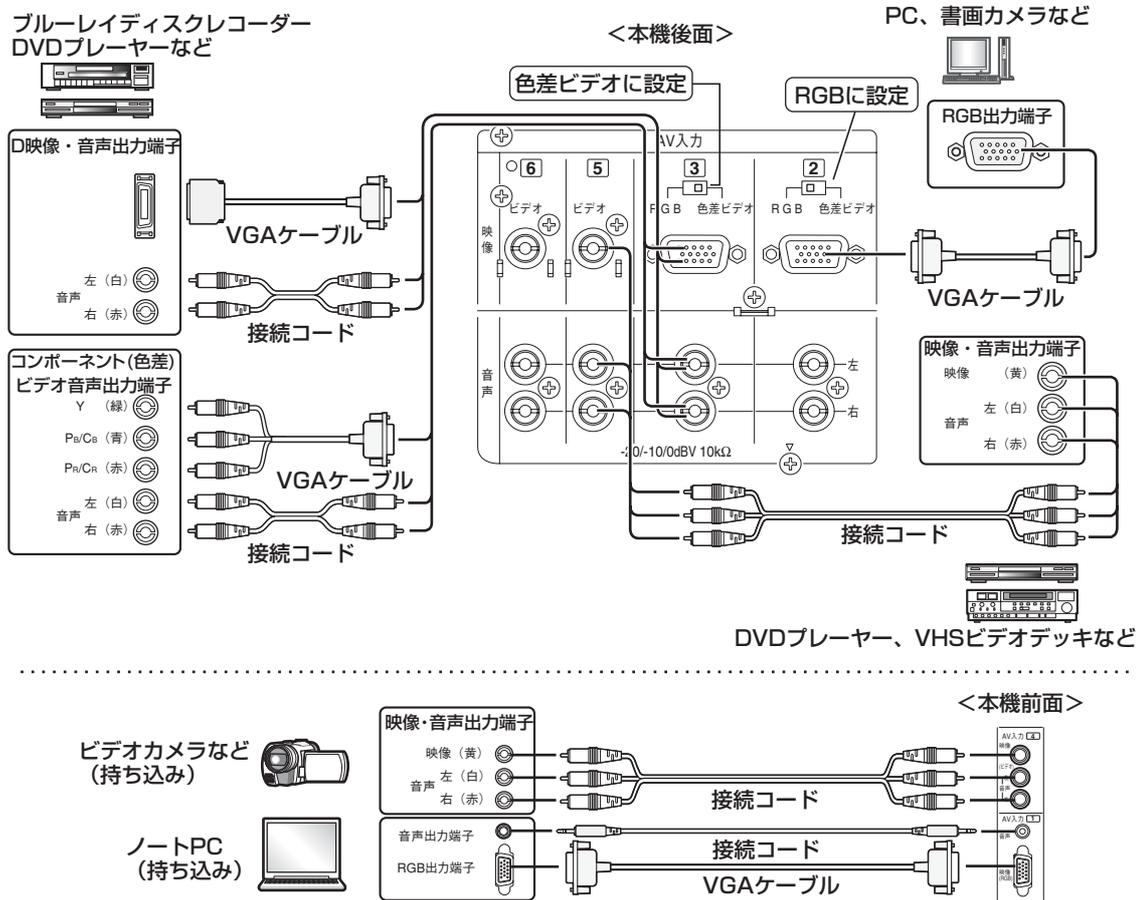
- Y端子も使用可能ですが、確実な接続と抜け防止のために、丸端子をおすすめします。
- 外部機器制御端子のねじの締付トルク：39～59 N・cm {4～6 kgf・cm}



AV機器の接続方法

AV機器は以下のように接続します。

使用するVGAケーブル、接続ケーブルについては22～25ページをお読みください。



メモ

- 本機前面のAV入力端子1はRGB専用です。
本機前面にハイビジョン機器を接続する場合にはAV入力端子4を使用してください。
- ブルーレイディスクレコーダーなどのHDMI出力を使用する場合にはデジタルリンク対応のプロジェクトターとデジタルインターフェイスボックスが必要になります。
接続方法については36ページをお読みください。

映像表示機の接続方法

映像表示機は、以下のように接続します。

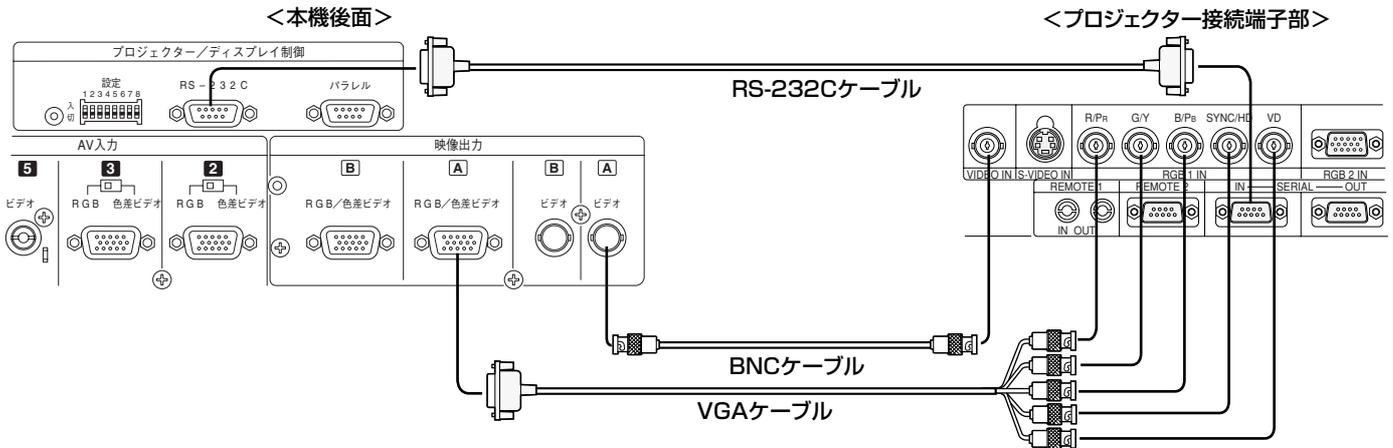
使用するケーブルの仕様（ピン配列など）については23～25ページをお読みください。

RS-232C制御対応機種については48ページをお読みください。

!! 重要 !!

- デジタルリンク対応のプロジェクトターおよびデジタルインターフェイスボックスの接続方法については36ページをお読みください。
- 接続方法によってプロジェクトター／ディスプレイ制御設定スイッチの設定が異なります。設定方法については39ページをお読みください。

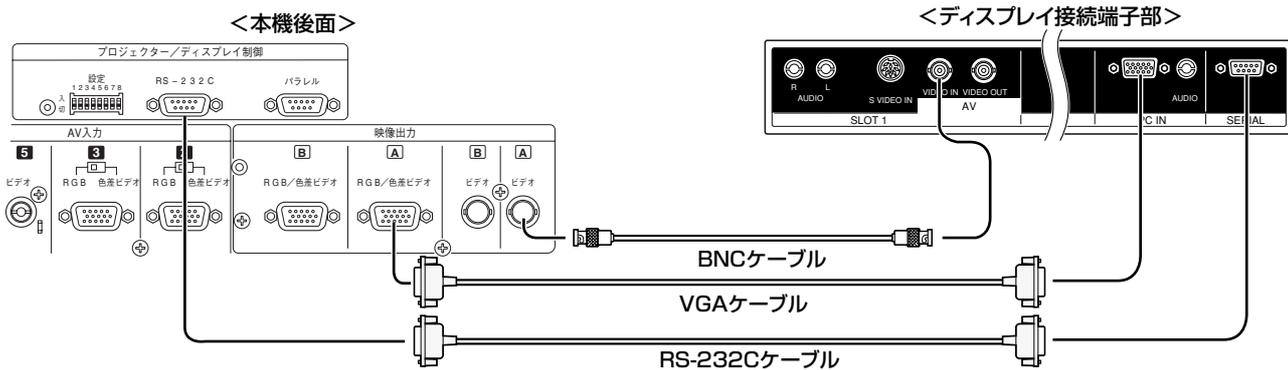
パナソニック製システムプロジェクターの場合



メモ

- 平行制御の場合は平行端子をプロジェクターのREMOTE 2端子に接続します。
RGB/色差ビデオ出力はプロジェクターのRGB 2 IN端子にも接続できます。

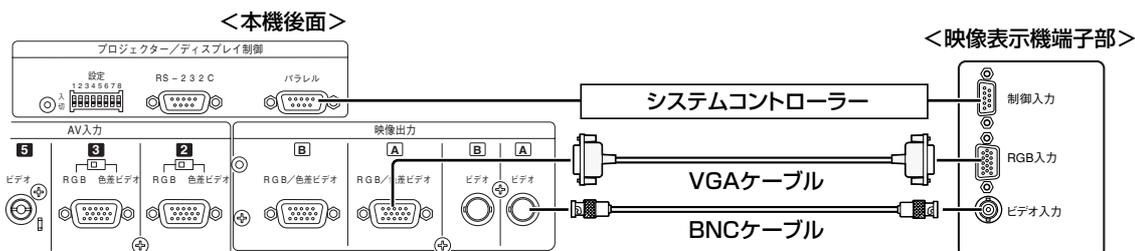
パナソニック製業務用プラズマディスプレイの場合



!!重要!!

- RGB/色差ビデオ出力は必ずディスプレイ本体固定部分のPC IN端子に接続してください。
SLOTに装着のPC IN端子やCOMPONENT/RGB端子に接続すると、本機から制御できません。
- ビデオ出力は必ずディスプレイのSLOT1に装着のVIDEO入力端子に接続してください。他のSLOTに装着のVIDEO入力端子に接続すると、本機から制御できません。

その他の映像表示機の場合



!!重要!!

- 映像表示機のRGB入力はコンポーネント（色差）ビデオ対応の端子を使用してください。
- 映像表示機の入力切り換えには別途システムコントローラーが必要になる場合があります。
詳しくは映像表示機の取扱説明書をお読みください。

音響機器の接続方法

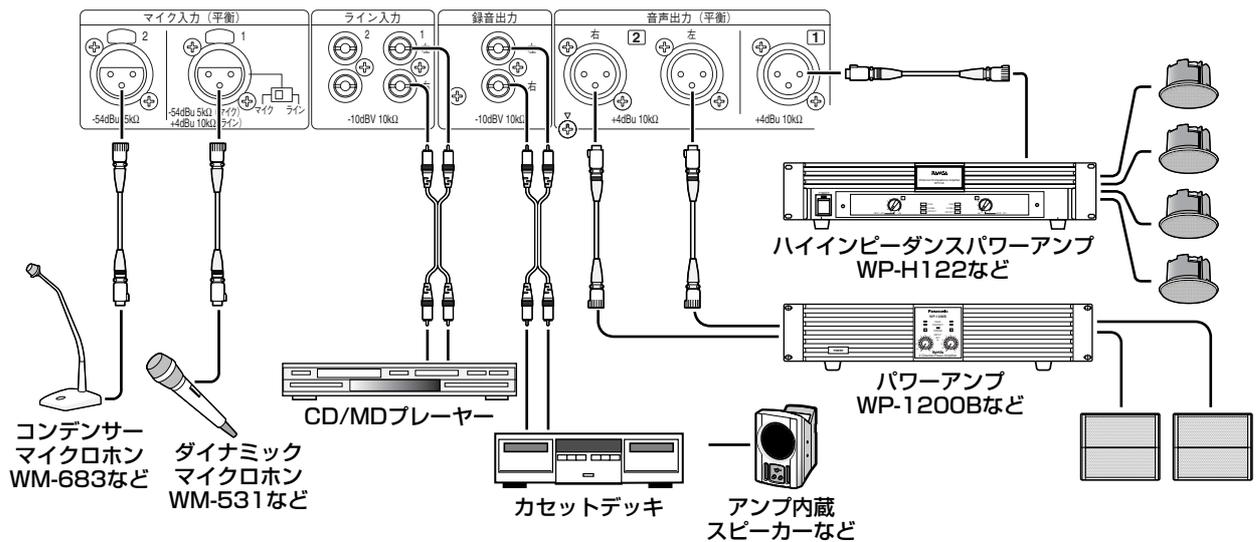
マイクロホン、パワーアンプなどの音響機器は以下のように接続します。

使用するケーブルについては22～23ページをお読みください。接続機器側の端子については各機器の取扱説明書をお読みください。

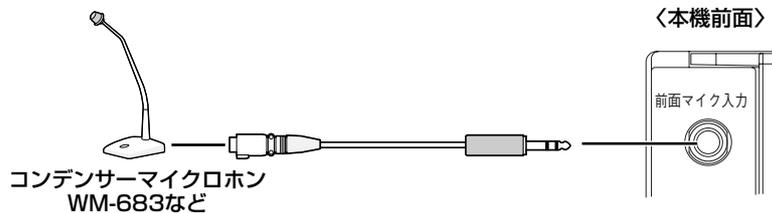
メモ

- マイク入力端子1にマイクロホンを接続する場合、切換スイッチは「マイク」に設定します。お買い上げ時は「マイク」に設定されています。
- コンデンサーマイクロホンの電源は電池または外部電源を使用してください。また、本機にファンタム電圧がかからないようにしてください。
- 録音内容の確認は別途アンプ、スピーカーを用意してください。録音機器の出力を本機のライン入力に接続すると録音時の信号ループにより発振することがあります。
- 接続方法、設定方法については各機器の取扱説明書もあわせてお読みください。

<本機後面>



<本機前面>



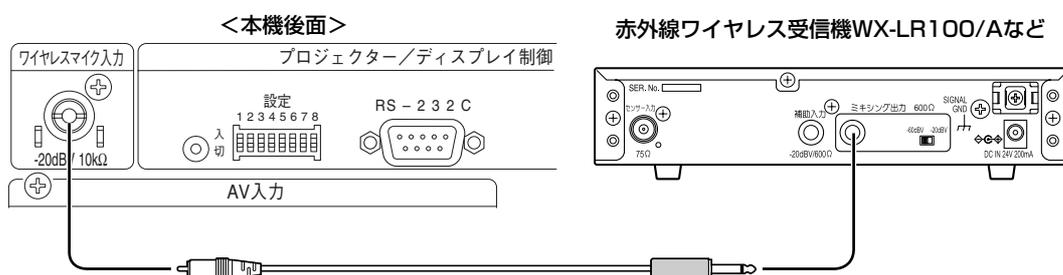
ワイヤレス受信機の接続方法

赤外線ワイヤレス受信機（WX-LR100/A）や、ワイヤレス受信機（WX-4020B、WX-4040B）は以下のように接続します。

使用するケーブルについては22ページをお読みください。

メモ

- ワイヤレス受信機の出カレベルは「-20 dBV」に設定します。ワイヤレス受信機取扱説明書もあわせてお読みください。
- 音量は、ワイヤレス受信機またはワイヤレスマイク側で調整します。



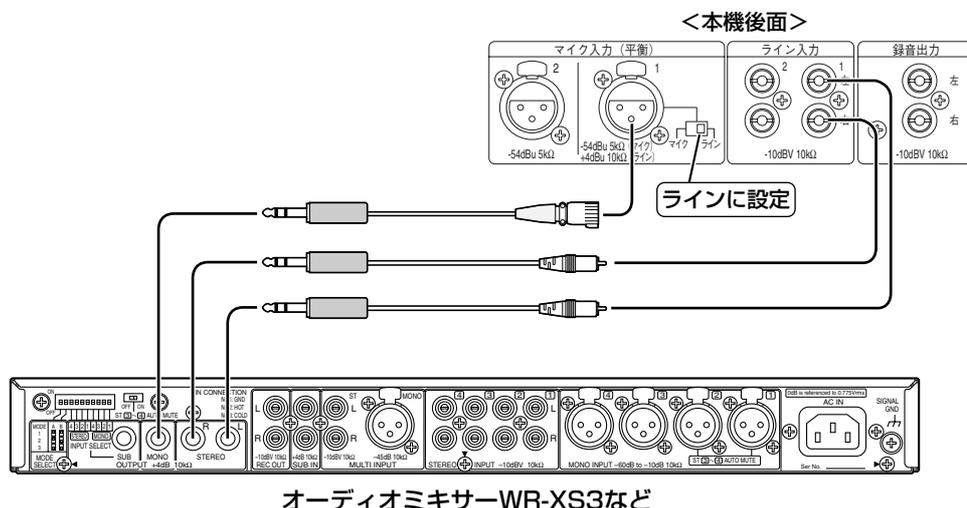
音声入力拡張用ミキサーの接続方法

音声入力拡張用のオーディオミキサー（WR-XS3など）は以下のように接続します。

使用するケーブルについては22ページをお読みください。

メモ

- マイク入力1の切り換えスイッチは「ライン」に設定します。お買い上げ時は「マイク」に設定されています。オーディオミキサーWR-XS3はモード2に設定します。設定方法についてはオーディオミキサーWR-XS3の取扱説明書をお読みください。



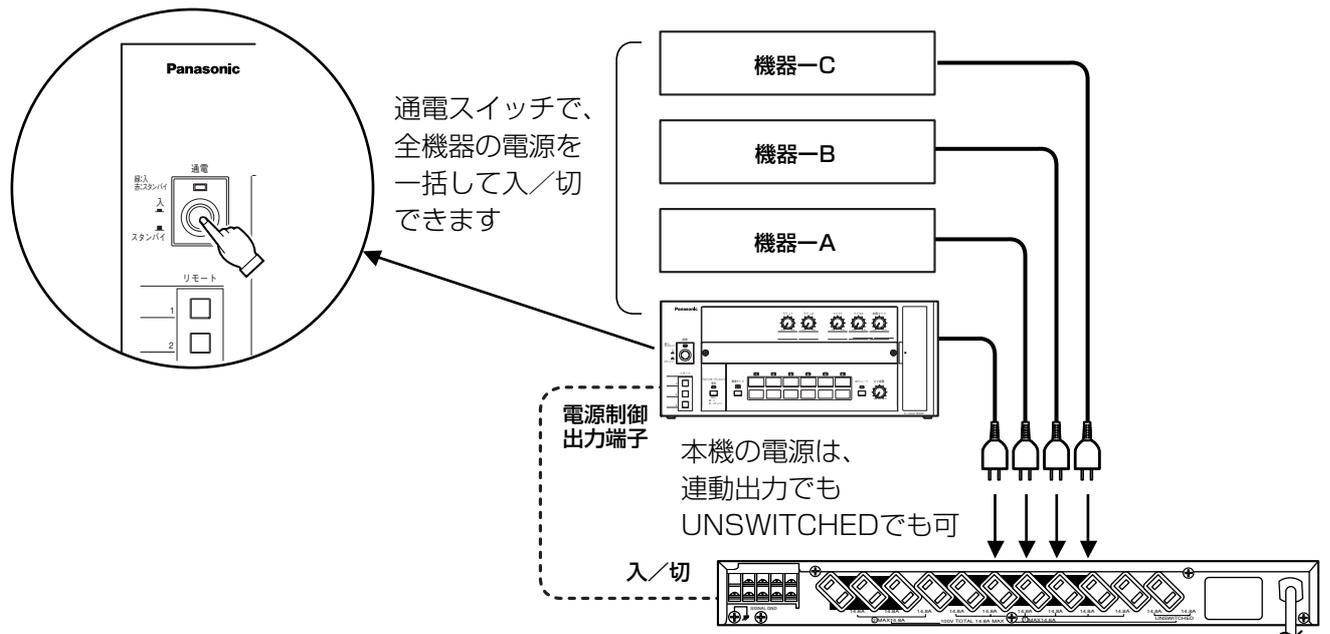
オーディオミキサーWR-XS3など

電源制御ユニットの接続方法

本機の電源制御出力端子を電源制御ユニットに接続すると、電源制御ユニット出力に接続された全機器の電源を、本機の通電スイッチから一括して入/切することができます。各機器の電源の切り忘れなどを防止するために、電源制御ユニットの使用をおすすめします。

!! 重要 !!

- 電源制御ユニットは、系統ごとおよび全体の必要電力容量に応じて、必ず当社のWU-L61またはWU-L67のどちらかを使用してください。
- 電源スイッチを持つ機器はすべて、必ず常時「入」にしておいてください。
- 電源制御ユニットを使用して全機器の電源を一斉に投入すると、突入電流により主幹側ブレーカーが遮断してしまふことがあります。また全機器の電源を一斉に遮断すると、タイミングなどによっては音声出力にクリックノイズが発生することがあります。これらを防止するために、突入電流が大きいパワーアンプなどは、他機器と電源制御ユニットの出力系統を分けて接続してください。



通電スイッチで全機器の電源を一括して入/切する場合は、本機背面の電源スイッチを常時「入」にしてください。

本機の電源プラグをUNSWITCHEDに接続した場合、通電スイッチを「スタンバイ」にすることで、連動出力に接続した機器の電源を一括して切ることができます。本機の通電表示灯をパイロットランプとして常時（赤色）点灯させることができます（本機はスタンバイ状態となり電力を消費します）。

本機の電源プラグを連動出力に接続した場合、通電スイッチを「スタンバイ」にすることで、本機を含む全機器の電源を一括して切ることができます。

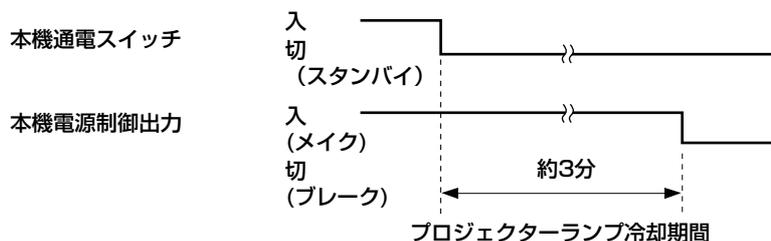
メモ

- 本機は、通電スイッチを「スタンバイ」にしても、すぐには電源制御出力をブレイクしない期間を設けています。通電状態のプロジェクターが接続されているときに本機の通電スイッチを「スタンバイ」にすると、プロジェクターのランプ冷却が始まります。

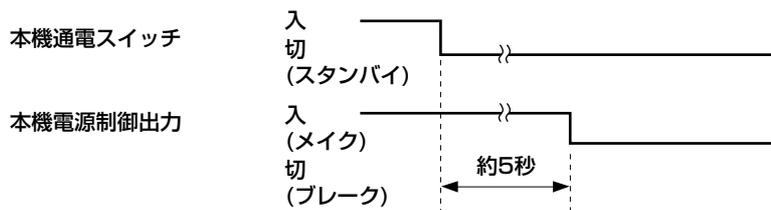
ランプ冷却期間（約3分）が終了すると本機は電源制御出力をブレイクします。

プロジェクターがスタンバイ状態または電源「切」のとき、あるいは接続機器がディスプレイのときに通電スイッチを「スタンバイ」にすると、約5秒後に本機は電源制御出力をブレイクします。いずれの場合でも、通電スイッチを「スタンバイ」にすると本機の通電表示灯は橙色点滅を開始し、電源制御出力をブレイクすると、赤色点灯になります。

- 通電状態のプロジェクターが接続されているとき



- プロジェクターが「スタンバイ」のとき
- ディスプレイが接続されているとき

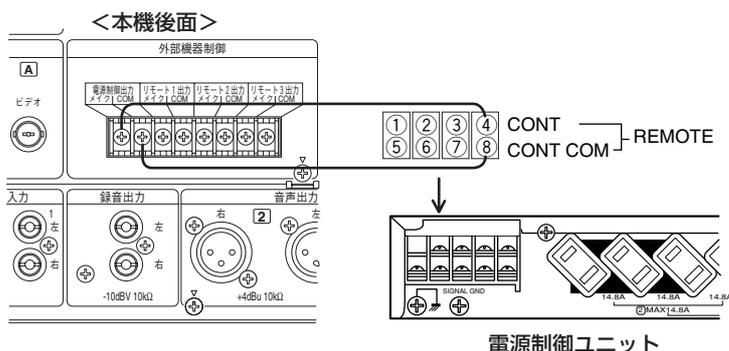


電源制御出力端子と電源制御ユニットとの接続

接続ケーブルについては25ページをお読みください。また電源制御ユニットの取扱説明書もお読みください。

!! 重要 !!

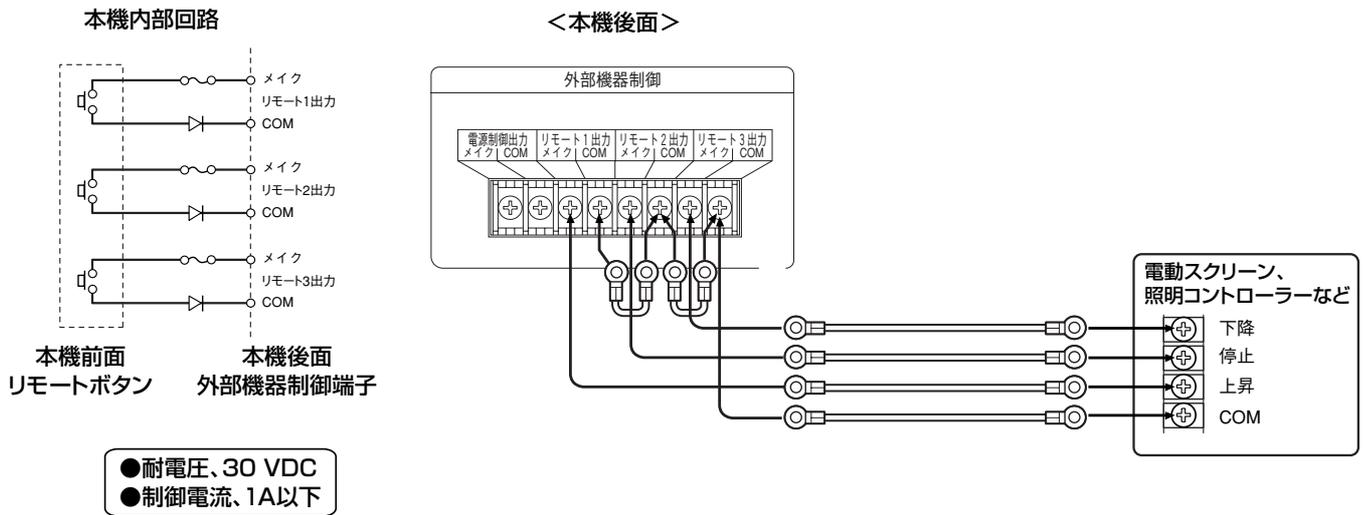
- 必ず、電源制御ユニットの電源スイッチを「切（スタンバイ）」にしておいてください。「入」になっていると、本機からの電源制御が行えません。
- 電源制御ユニット本体の電源スイッチで電源の入／切ができないよう、電源制御ユニットに付属のスイッチプロテクターを使用してください。電源制御ユニット側から電源の入／切を行うと、本機が通電状態にならないことがあります。またプロジェクターのランプ冷却が強制終了することによって、ランプ寿命を縮める原因になることがあります。



外部機器制御端子について

本機前面のリモートボタンで電動スクリーンや照明コントローラーなどを制御する場合は、本機後面の外部機器制御端子に外部機器を接続します。外部機器は以下のように接続します。

使用するケーブルについては25ページをお読みください。接続機器側の端子については、各機器の取扱説明書をお読みください。

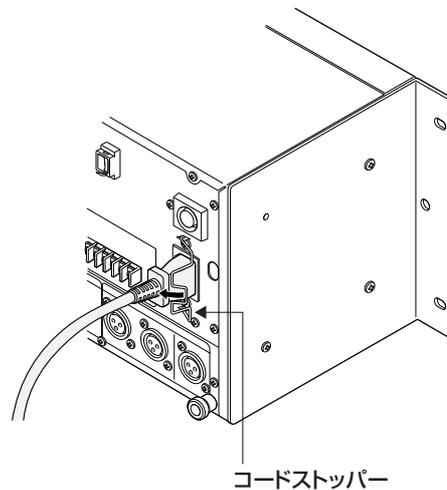


メモ

- 接続する機器によってはCOM端子に電源が供給されているものがあります。その場合は接続機器のCOM端子を本機のメイク端子に接続してください。

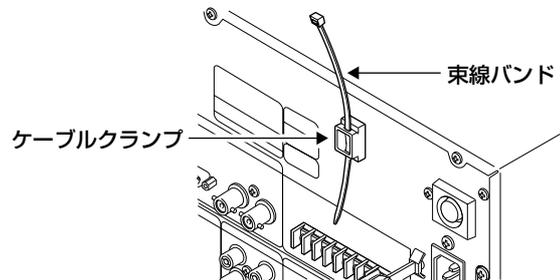
電源コードの固定のしかた

- 1 電源コードを本体に差し込む。
- 2 コードストッパーで、電源コードを固定します。



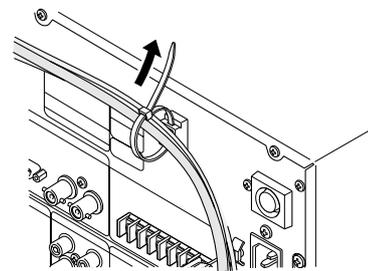
接続コードの束線のしかた

1 ケーブルクランプに付属の束線バンドを通す。



2 ケーブル類を束ねて、ケーブルクランプの上に通す。

固定する必要があるケーブルを束ねて、ケーブルクランプの上に通します。

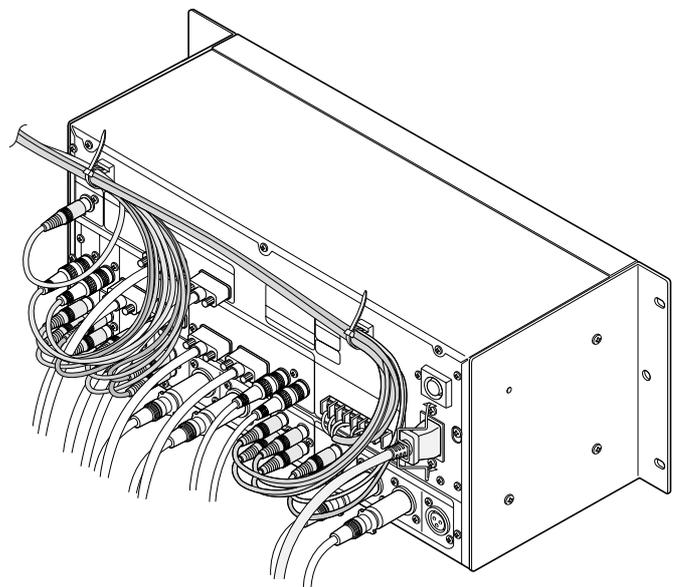


!!重要!!

- 電源コードはケーブルクランプに固定しないでください。
- マイク入力ケーブルと音声出力ケーブルは一緒に束線しないでください。発振により機器を傷める要因となります。
- RGB／色差ビデオ（VGAケーブル）、RS-232C制御ケーブル、パラレル制御ケーブルはマイク入力ケーブルと一緒に束線しないでください。音声ノイズの要因となります。

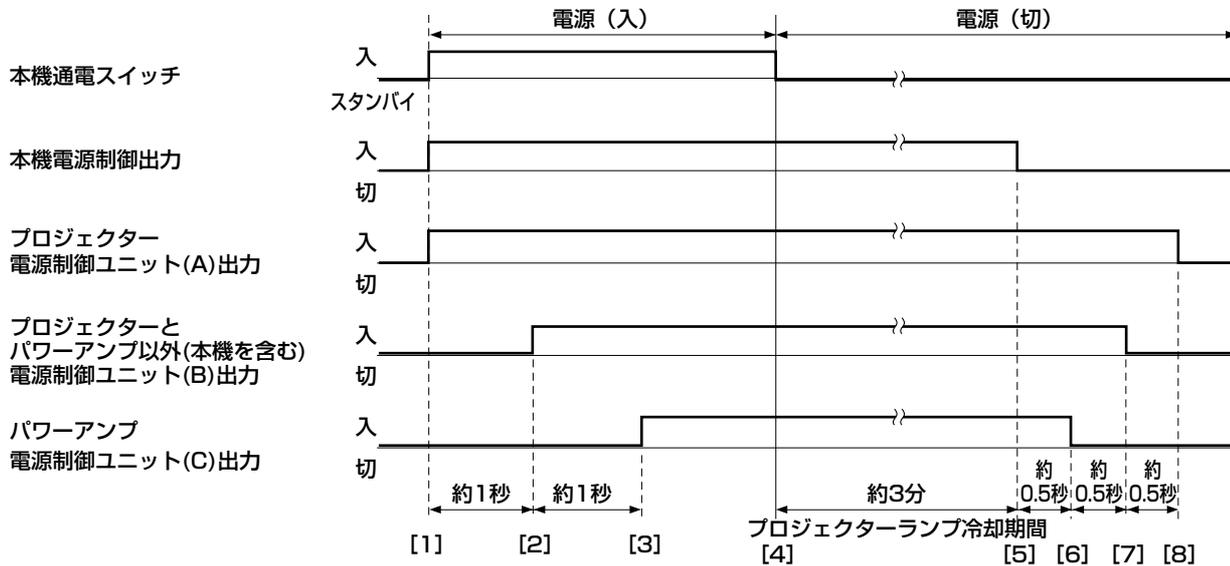
3 束線バンド（付属品）で線材を固定する。

付属の束線バンドをケーブルクランプに取り付け、線材を固定します。
その際、ケーブルやプラグの根元が、きつく曲がらないように束ねます。



メモ

- 電源制御ユニットにWU-L67を使用した場合、本機の通電スイッチ操作時の各機器への電源供給は以下のようになります。



【電源を入れるとき】

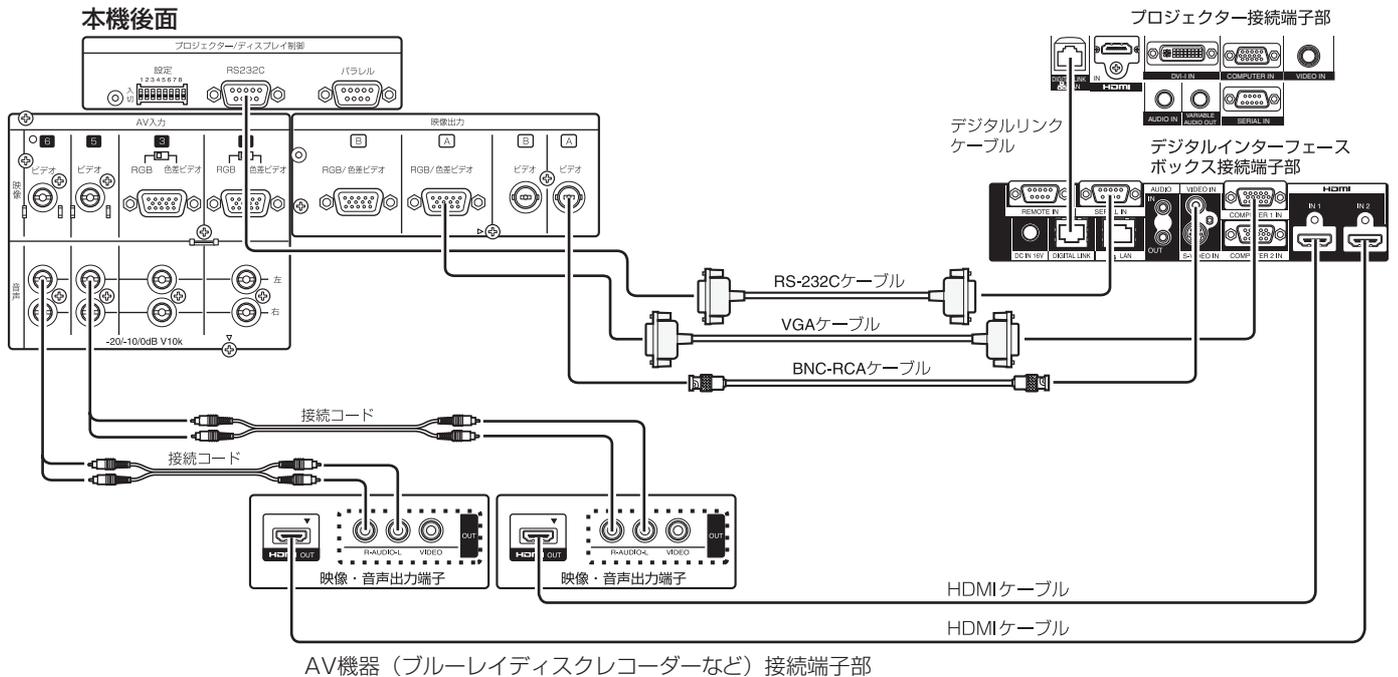
- [1] 本機通電スイッチ②を「入」にすると、本機は電源制御ユニットへの制御を開始します。
まず、プロジェクターに電源が供給されます。
- [2] 約1秒後に、本機を含む「プロジェクターとパワーアンプ以外」の機器に電源が供給されます。
- [3] さらに約1秒後に、パワーアンプに電源が供給されます。

【電源を切るとき】

- [4] 本機の通電スイッチ②を「スタンバイ」にすると、プロジェクターのランプ冷却が始まります。
- [5] 約3分後、プロジェクターのランプ冷却が終了すると、本機は電源制御ユニットへの制御を終了します。
プロジェクターがスタンバイ状態のときに通電スイッチを「スタンバイ」にした場合は、約5秒後に終了します。
- [6] 約0.5秒後に、パワーアンプの電源が遮断されます。
- [7] 約0.5秒後に本機を含む、プロジェクターとパワーアンプ以外の機器の電源が遮断されます。
- [8] さらに約0.5秒後に、プロジェクターの電源が遮断されます。

デジタルリンク対応プロジェクターの接続方法

デジタルリンク対応プロジェクターは以下のようにデジタルインターフェースボックス経由で接続します。
使用するVGAケーブル、接続ケーブルについては22～25ページをお読みください。



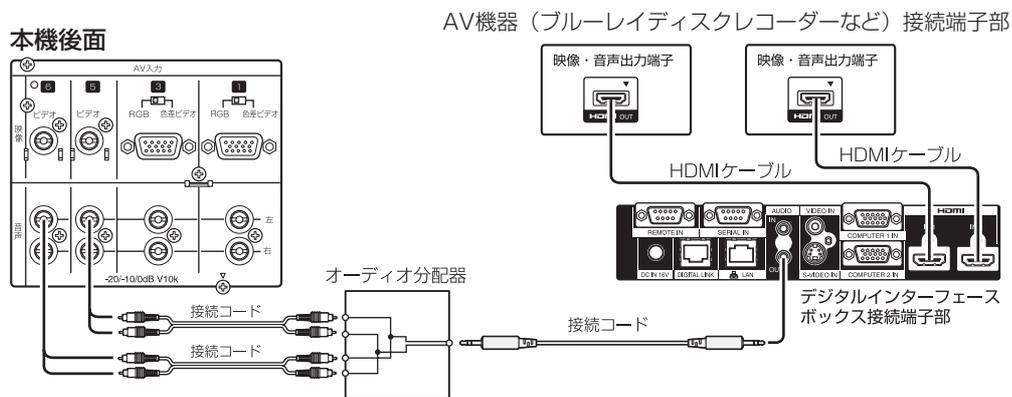
工事説明

!!重要!!

- デジタルリンクケーブルおよびHDMIケーブルの仕様（ピン配列、最大延長距離など）についてはプロジェクターおよびデジタルインターフェースボックスの取扱説明書をお読みください。
- デジタルインターフェースボックスのHDMI IN1に接続したAV機器の音声出力を本機のAV入力5に、HDMI IN2に接続したAV機器の音声出力を本機のAV入力6に接続します。
- プロジェクターの設定で [スタンバイモード] を [ノーマル] に、[RS232C] の設定を [Digital Link] にしてください。設定方法の詳細についてはプロジェクターの取扱説明書をお読みください。

アナログ音声出力のないAV機器を接続する場合

デジタルインターフェースボックスの音声出力を本機のAV入力5および6の音声入力に分配して接続してください。

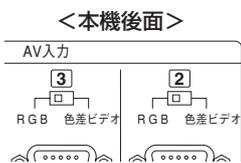


!!重要!!

- デジタルインターフェースボックスの設定で音声入力を [HDMI AUDIO]、音声出力を [AUDIO OUT] に設定し、音声出力の音量を調整してください。設定方法の詳細については、デジタルインターフェースボックスの取扱説明書をお読みください。

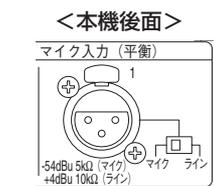
調整／設定のしかた

AV入力端子2・3の信号形式の設定



本機後面の切換スイッチで設定します。ノートPCなどのVGA出力を接続する場合は「RGB」に設定します。AV機器のコンポーネント（色差）ビデオ出力を接続する場合は「色差ビデオ」に設定します。お買い上げ時は「RGB」に設定されています。

マイク入力端子1の設定



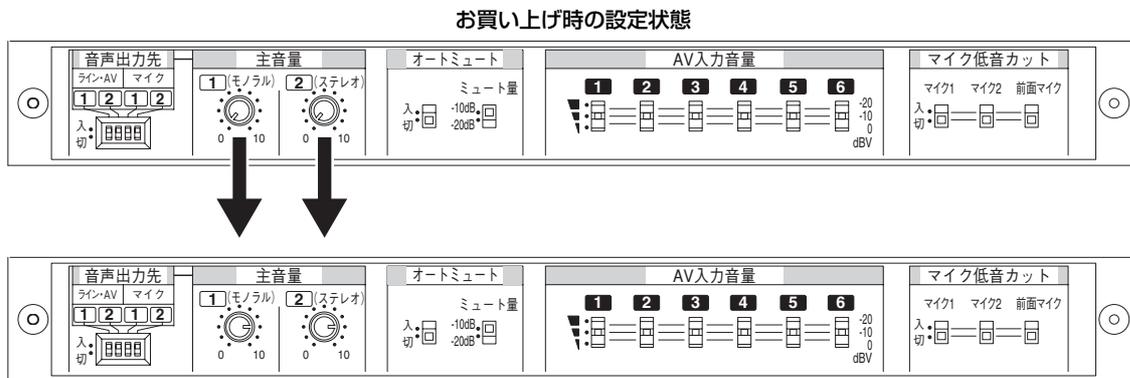
本機後面の切換スイッチで設定します。マイクロホンを接続する場合には「マイク」に設定します。オーディオミキサーなどを接続してマイクロホン入力を拡張する場合には「ライン」に設定します。お買い上げ時は「マイク」に設定されています。

29ページ「音声入力拡張用ミキサーの接続方法」もあわせてお読みください。

事前調整／設定部の調整／設定

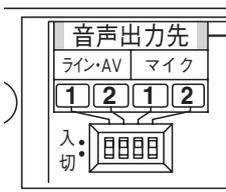
ここでは設置・接続後の、本機の調整／設定方法について説明します。本調整／設定が終了次第、事前調整／設定部の誤操作を防止したい場合は、付属のアクリルカバーを付属のアクリルカバー取付ねじ（M3×10 mm）で取り付けてください。

はじめに下図のように、音声出力主音量つまみを、おおよそ3時の位置に合わせておいてください。その他の音量つまみはすべて「0」にしてから調整／設定を開始してください。



主音量つまみを、おおよそ3時の位置に合わせておく。

1 音声の出力先を設定する。



マイク入力音声とライン・AV入力音声を、それぞれ音声出力端子1・2のどちらから出力するかを設定します。お買い上げ時はすべて「入」になっており、マイク、ライン・AVともに音声出力端子1・2の両方から出力されます。マイク入力音声を音声出力端子1のみから出力する場合には、マイクの①を「入」、②を「切」に設定します。ライン・AV入力音声を音声出力端子2のみから出力する場合には、ライン・AVの①を「切」、②を「入」に設定します。

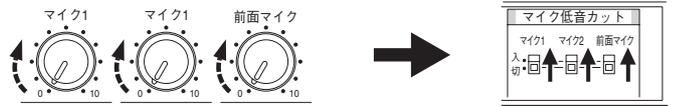
メモ

- ライン入力音声とAV入力音声は同じ音声出力端子から出力されます。個別に出力先を選択することはできません。

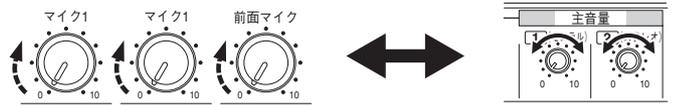
調整／設定のしかた（つづき）

2 マイク入力音声の音質・音量を調整する。

マイクロホンに向かって話しながら音量つまみを徐々に右に回します。低音が強調されて聞き取りにくい音質の場合は、マイク低音カットスイッチを「入」にします。

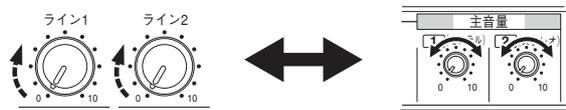


音量つまみを通常使用位置（例えば9時～12時の間の任意の位置）まで回します。音量が大きすぎる、または、音量が不足している場合は、音声出力主音量つまみで調整してください。



3 ライン入力音声の音量を調整する。

ライン入力に接続された音声再生機器を（1台ずつ）再生しながら、音量つまみを徐々に右に回します。音量が大きすぎる、または、音量が不足している場合は、音声出力主音量つまみで調整してください。



4 AV入力音声の音量を調整する。

- [1] 通常使用するAV機器を再生し、AV音量つまみを徐々に右に回します。音量が大きすぎる場合は、該当のAV入力音量スイッチを「0 dBV」に設定してください。音量が不足している場合は、AV入力音量スイッチを「-20 dBV」に設定してください。
- [2] その他のAV機器も順番に再生して同様の調整／設定を行い、どのAV機器を再生しても顕著な音量差がないように、AV入力音量スイッチを設定します。
- [3] AV入力1～6すべてにおいて、音量が大きすぎる、または、音量が不足している場合は、音声出力主音量つまみで調整してください。



⚠ 注意

- マイク、AV機器、音響機器の接続、再生メディアの交換、AV入力選択ボタンの操作をするときには、必ず音量つまみをいったん「0」にしてください。ノイズや顕著な音量差などでスピーカーの破損や耳を痛める要因になります。

5 オートミュート機能を設定する。

オートミュートとは、マイクロホンで話している間だけ、音声再生機器とAV機器の音量を自動的に減衰させる機能です。マイク入力1・2、前面マイク入力、ワイヤレスマイク入力のいずれからも、すべてのライン・AV入力をミュートすることができます。



マイク入力音声とライン・AV入力音声の出力先が、同じ場合でも異なる場合でも動作します。本機能を動作させたいときは、オートミュート設定スイッチを「入」にします。また動作したときのライン・AV入力音声の減衰量を選択します。お買い上げ時は「-10 dB」に設定されています。

メモ

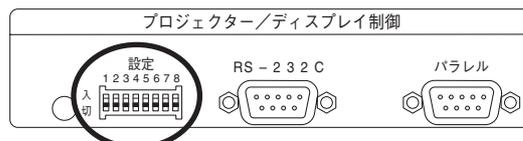
- 周囲騒音などによりオートミュートが誤作動する場合はマイク低音カットスイッチを「入」にしてください。また、マイクと口元が離れているとミュートがかかりにくくなることがありますので、マイクを口元に近づけた状態で音量を調整してください。

プロジェクター／ディスプレイ制御の設定

映像表示機の制御に関連する設定を行います。

- 1～7番のすべてについて、実際のシステムに合致しているかを必ず確認してください。
- 8番はデジタルインターフェースボックスのHDMI入力を使用する場合に「入」にします。詳細については36ページをお読みください。
- 設定後は必ず、本機を一度スタンバイ状態にするか、本機の電源を切ってください。再び通電状態になったときに、本スイッチの設定変更が反映されます。
- お買い上げ時はすべて「切」に設定されています。
- 6・7・8番の設定は、5番の設定に依存します。

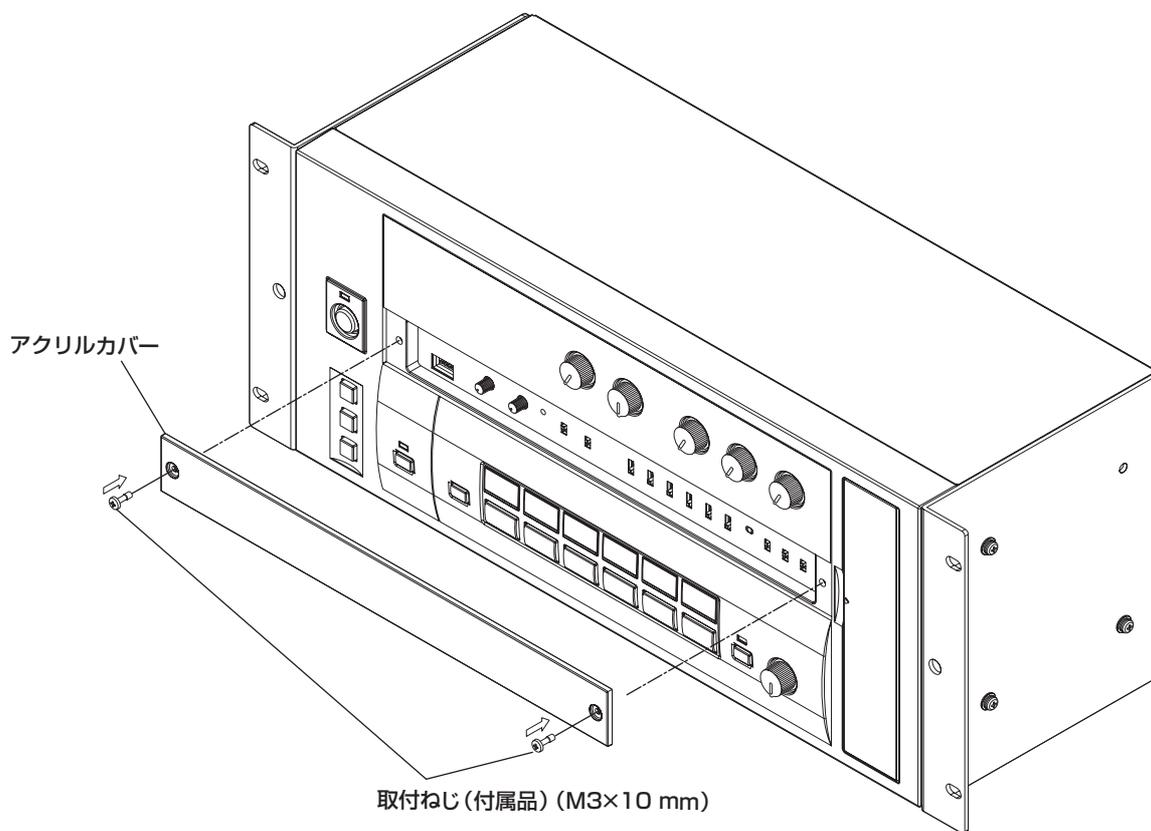
〈本機後面〉



番号	設定名称	設定内容	状態	動作
1	AV入力1起動	本機がスタンバイ状態または電源切の状態から通電状態になった場合、AV入力1で起動するようにします。	入	AV入力1で起動
			切	無通電状態になる直前に選択されていたAV入力を再現（レジューム）
2	AVミュート無効	本機からのAVミュート操作を無効にします。	入	AVミュート操作無効 (映像表示機本体またはリモコンでのシャッター／映像ミュートの操作は、常に有効になります)
			切	AVミュート有効
3	パラレル制御	パラレル制御を有効にします。	入	パラレル制御有効 (RS-232Cは無効)
			切	パラレル制御無効 (RS-232Cは有効)
4	映像表示機連動起動	本機が通電状態になるときに、連動して映像表示機も通電状態にします。	入	連動起動
			切	非連動 (ただしディスプレイの場合、電源制御ユニットを使用すると、電源「入」で通電状態になることがあります)
5	制御対象： ディスプレイ	制御対象映像表示機を、ディスプレイにします。	入	制御対象：ディスプレイ
			切	制御対象：プロジェクター
6	プロジェクター・ RGB2入力	5番の設定が「切」（プロジェクター）で、本機映像出力をRGB2入力に接続するときは「入」にします。	入	RGB2入力が有効
			切	RGB1入力が有効
7	ディスプレイ・ シングルビデオボード	5番の設定が「入」（ディスプレイ）で、搭載するビデオボードがシングルの場合「入」にします。	入	シングルビデオボードが有効
			切	デュアルビデオボードが有効
8	プロジェクター・ デジタルリンク対応	5番の設定が「切」（プロジェクター）の場合に、デジタルリンク搭載プロジェクターを使用する場合「入」にします。	入	デジタルリンク有効
			切	デジタルリンク無効

誤操作防止アクリルカバーの取り付け／取り外し

本機を使用するには、事前調整および設定部の調節をあらかじめ行っておく必要があります。
事前調整および設定部の調節完了後、付属の取付ねじを使って誤操作防止アクリルカバーを取り付けることにより、誤操作を防止できます。



動作確認の手順

設置、接続、調整／設定が終わったら、以下の手順で各項目に記載のとおり動作することを確認します。操作は必ず、アクリルカバー外部の各音量つまみを「0」にしてから行ってください。操作方法は12～17ページをお読みください。

1 電源を入れる (☞12ページ)

- 通電スイッチ②が「入」の状態に通電表示灯①が緑色点灯する。
- プロジェクター／ディスプレイ電源表示灯⑤が正常に点灯する。
プロジェクター／ディスプレイ制御設定スイッチ③の4番（映像表示機連動起動）の設定によって動作が異なります。
「入：連動起動」：緑色点灯し映像表示機は通電状態になります。
RS-232C制御のときは、電源状態を判定している間、橙色点滅します。
「切：非連動」：赤色点灯し映像表示機はスタンバイ状態になります。
- AV入力選択ボタン⑧の表示灯が正常に点灯する。
プロジェクター／ディスプレイ制御設定スイッチ③の1番（AV入力1起動）の設定によって動作が異なります。
「入」：AV入力1が点灯します。
「切」：無通電状態になる直前に選択されていたAV入力1が点灯します。

2 AV機器を使用する (☞13～15ページ)

- リモートボタン④が正常に動作する。
- プロジェクター／ディスプレイ電源ボタン⑥を2秒押して、映像表示機の電源が制御される。
- 映像表示機に、映像が正常に映し出される。
- 接続・設定した音声出力（スピーカー）から適切な音量で出力される。
- 再生メディア交換やAV入力選択切り換え時に、顕著な音量差がない。
- AVミュートボタン⑨を押して、映像・音声がミュートされる。
- 画面サイズ切換ボタン⑦を押すごとに画面サイズが切り換わり、最後に設定した画面サイズは、AV入力を切り換えても記憶されている。

3 マイクロホンや音声再生機器を使用する (☞16ページ)

- 接続・設定した音声出力（スピーカー）から適切な音量で出力される。また低音カットスイッチ⑩の設定が適切である。
- オートミュート設定スイッチ⑱を「入」にした場合は、マイクロホンを使用したときに、音声再生機器（またはAV機器）の音量が減衰する。また、その減衰量が適切である。

4 電源を切る (☞17ページ)

- 通電表示灯①が赤色点灯または消灯する。

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

これらの処置をしても直らないときやわからないとき、この表以外の症状のときまたは工事に関係する内容のときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
通電スイッチが「スタンバイ」になっているのに、通電表示灯が赤色に点灯しない	●電源プラグがコンセントから抜けていませんか？あるいは電源コードが本機から抜けていませんか？ →電源コードを正しく接続してください。	32
	●電源スイッチが「切」になっていませんか？ →電源スイッチを「入」にしてください。	12
	●電源制御ユニットによって本機の電源が遮断されているときは、通電表示灯は消灯となります。故障ではありません。	—
通電スイッチを「入」にしても、通電表示灯が緑色点灯せず本機が通電状態にならない	●電源プラグがコンセントから抜けていませんか？あるいは電源コードが本機から抜けていませんか？ →電源コードを正しく接続してください。	32
	●電源スイッチが「切」になっていませんか？ →電源スイッチを「入」にしてください。	12
	●本機の電源制御出力端子と電源制御ユニットとの接続に故障が発生している可能性があります。 電源制御ユニットとの接続を確認してください。	31
映像表示機をRS-232Cで制御しているが、映像表示機の電源入／切、入力切換などの制御で映像表示機に反映されないものがある	●プロジェクター／ディスプレイ制御設定スイッチ（プロジェクター／ディスプレイ選択）は正しく設定されていますか？ →設定スイッチの5番を確認してください。	39

必要なとき

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
<p>プロジェクターをパ ラレルで制御してい るが、通電スイッチ を「切」にしたとき、 プロジェクターのラ ンプ冷却が終わらな いうちにプロジェク ターの電源が切れた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクター／ディスプレイ制御設定スイッチが「ディスプレイ」になっていませんか？ → 設定スイッチの5番を「切（プロジェクター）」に設定してください。 	39
<p>通電スイッチを「入」 にして本機を通電状 態にすると、映像表 示機も一緒に通電状 態になってしまう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクター／ディスプレイ制御設定スイッチが、「入（映像表示機連動起動）」になっていませんか？ → 設定スイッチの4番を「切（非連動）」に設定してください。 	39
<p>映像表示機をRS- 232Cで制御してい るが、プロジェク ター／ディスプレイ 電源表示灯が消灯し たまま、点灯させる ことができない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 映像表示機の電源が切られていませんか？ → 映像表示機の電源を確認してください。 	-
<p>プロジェクター／ ディスプレイ電源ボ タンを押しても、映 像表示機の電源が入 らないまたは電源を 切ることができない</p>	<p>→ プロジェクター／ディスプレイ電源ボタンを2秒以上長押ししてください。</p>	13、15

必要
な
と
き

故障かな!? (つづき)

症 状	原 因 ・ 対 策	参 照 ペ ー ジ
<p>通電スイッチを「入」にして本機を通電状態にすると、必ずAV入力1が選択されて、無通電状態になる直前の選択を覚えていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクター／ディスプレイ制御設定スイッチが、「入 (AV入力1起動)」になっていませんか？ → 設定スイッチの1番を「切 (レジューム)」に設定してください 	<p>39</p>
<p>映像表示機をRS-232Cで制御しているが、常に択一状態であるはずのAV入力選択が、突然無選択状態 (全表示消灯) になった</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 映像表示機側で入力を切り換えませんでしたか？ → 映像表示機側で入力を元に戻すか、本機のAV入力選択ボタンを押してください。 	<p>14</p>
<p>AV入力の映像が一部映らない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 映像表示機は正しく接続されていますか？ → 映像表示機との接続を確認してください。 	<p>26、27</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクター／ディスプレイ制御設定スイッチのRGB入力番号設定 (RGB1／RGB2選択) は正しく設定されていますか？ → プロジェクターとの接続を確認してください。また、設定スイッチの6番を確認してください。 	<p>39</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクター／ディスプレイ制御設定スイッチのビデオボード種設定 (デュアル／シングル選択) は正しく設定されていますか？ → ディスプレイとの接続を確認してください。設定スイッチの7番を確認してください。 	<p>39</p>
<p>AV入力2または3に接続しているPCや書画カメラ、ハイビジョン映像の色調が顕著におかしい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● AV入力2・3信号形式設定スイッチ (RGB／色差ビデオ選択) は正しく設定されていますか？ → 後面のAV入力2・3信号形式設定スイッチを確認してください。 	<p>10、26</p>

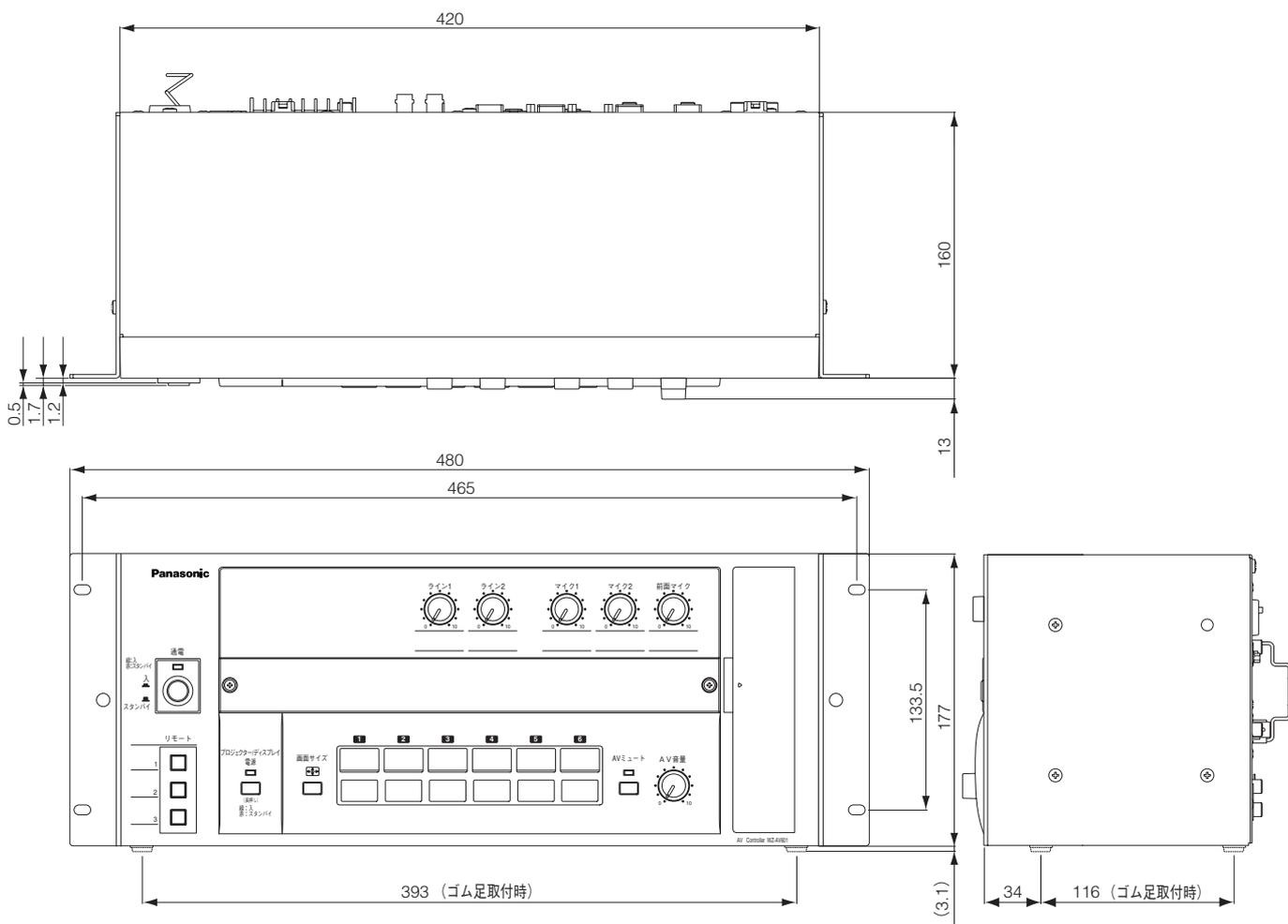
必要なとき

症 状	原因・対策	参照ページ
画面サイズ切換ボタンを押しても、画面サイズが切り換わらない	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクター／ディスプレイ制御設定スイッチの制御方法がパラレルになっていませんか？ →パラレル制御のときは、本機能は使用できません。RS-232C制御で使用してください。設定スイッチの3番も確認してください。 	39
	<ul style="list-style-type: none"> ● 映像信号によっては画面サイズが固定されて切り換わらない場合があります。詳しくは映像表示機の取扱説明書をお読みください。 	—
AVミュートボタンを押しても、表示灯が点滅せず、映像・音声がミュートされない	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクター／ディスプレイ制御設定スイッチが、「AVミュート無効」になっていませんか？ →設定スイッチの2番を「切（AVミュート有効）」にしてください。 	39
AV入力の音量が極端に小さい。あるいは極端に大きい	<ul style="list-style-type: none"> ● AV入力音量スイッチの位置は適切に設定されていますか？ →事前調整／設定部の設定を確認してください。 	37

電源コード・コネクター・電源プラグは、ときどき点検してください。

症 状	原因・対策
電源コードの被ふくが傷んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源コード・コネクター・電源プラグが傷んでいます。そのままの状態を使い続けると、感電や火災の原因になります。直ちに電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。
使用中、電源コード・コネクター・電源プラグの一部が熱い	
使用中、電源コードを曲げたり伸ばしたりすると、暖かくなったり、ぬるくなったりする	

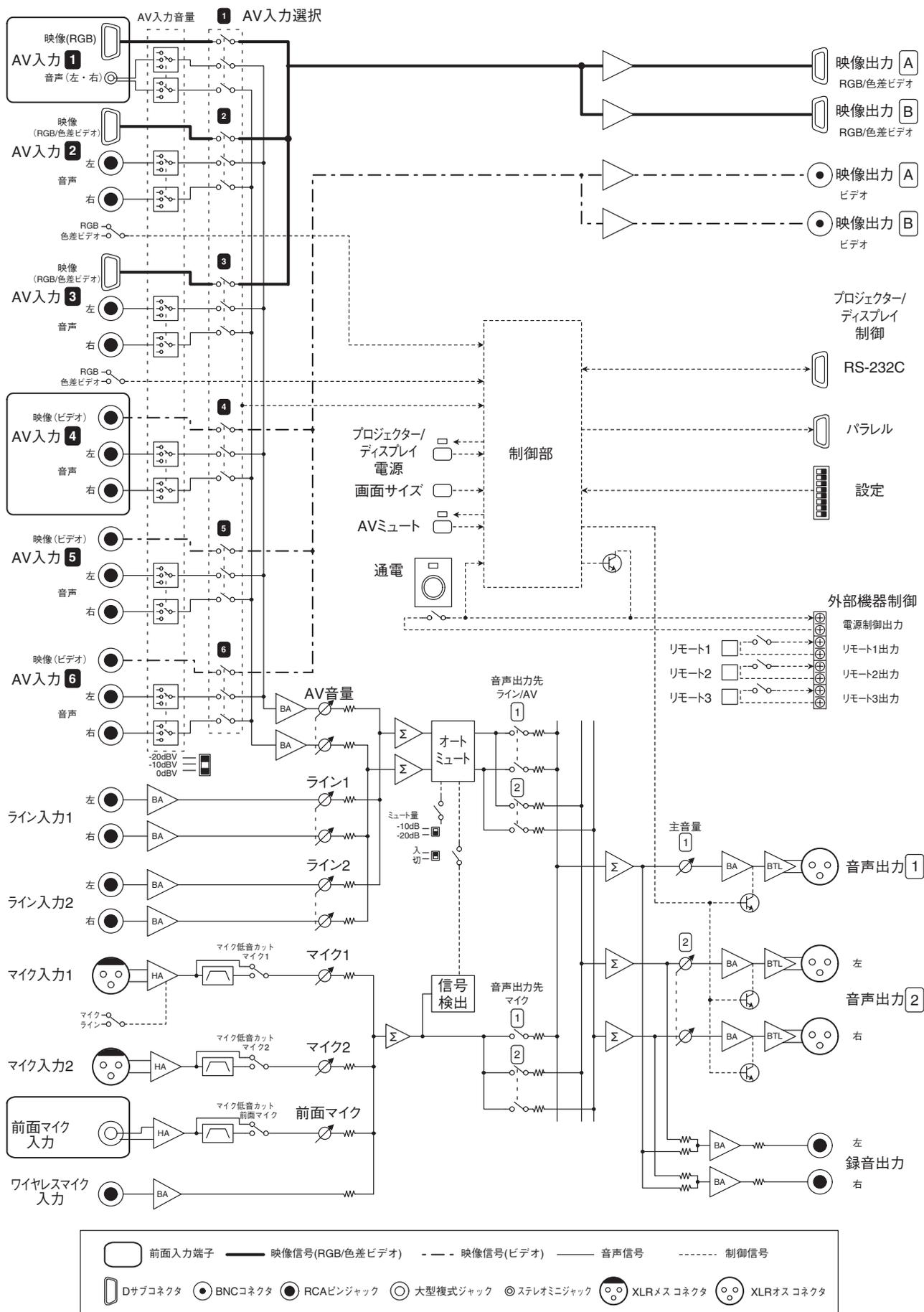
外觀寸法図



(単位：mm)

必要なとき

系統図



必要なとき

仕様

●基本仕様

電源	AC 100 V 50 Hz/60 Hz
消費電力	約12 W (電気用品安全法技術基準に基づく) (通電スイッチで通電「切」のとき:約3 W)
使用温度範囲	0 °C~45 °C
寸法	幅480 mm 高さ177 mm 奥行き160 mm (突起部含まず)
質量	約5.7 kg
仕上げ	前面パネル : AVライトグレー色ABS樹脂 (マンセルN8近似色) カバー : AVライトグレー色塗装鋼板 (マンセルN8近似色)
映像周波数特性	[AV入力1~3] 50 Hz~200 MHz、+0 dB/-3.0 dB RGB : 1 600×1 200ピクセル (60 Hz)、 色差ビデオ : 1 080pまで対応 [AV入力4~6] 50 Hz~10 MHz、+0 dB/-3.0 dB
音声周波数特性	[マイク入力~音声出力1・2、低音カット「切」] 20 Hz~20 kHz、+0.5 dB/-2.0 dB [ライン/AV入力~音声出力1・2] 20 Hz~20 kHz、+0.5 dB/-1.0 dB
全高調波歪率	0.1 %以下 (1 kHz、定格入出力時)
S/N比	80 dB以上 (ライン/AV~音声出力1・2、オーディオバンド22.4 Hz ~ 22.4 kHz)
クロストーク	-80 dB以下 (1 kHz)
最大入力レベル	-34 dBu (マイク入力「マイク」時、1 kHz) +10 dBV (ライン/AV入力、1 kHz) 0 dBV (ワイヤレスマイク入力、1 kHz)
最大出力レベル	+24 dBu (音声出力1・2、1 kHz)
オートミュート機能	マイク入力音声により、すべてのライン/AV入力音声の音量を自動的に減衰 「入/切」スイッチ、「-10 dB/-20 dB」減衰量設定スイッチ付
低音カット機能	カットオフ周波数 100 Hz すべてのマイク入力に搭載 高音も連動 (カットオフ周波数18 kHz)
映像表示機制御	信号レベル : RS-232C準拠
通信条件	同期方式 : 調歩同期 (非同期) ボーレート : 9 600 bps パリティ : なし キャラクター長 : 8ビット ストップビット : 1ビット フロー制御 : なし [対応映像表示機 (2013年8月現在)] <パナソニック製プロジェクター> PT-DZ570、PT-DW530、PT-DX500、PT-VX400、PT-VW330 <パナソニック製デジタルリンク対応プロジェクター> PT-DZ870K、PT-DW830K、PT-DX100K、PT-RZ470K、 PT-RW430K、PT-RZ475、PT-RZ370、PT-RW330、PT-VW431D デジタルインターフェースボックスET-YFB100が別途必要になります <パナソニック製業務用プラズマディスプレイ> TH-**PF30シリーズ、TH-**PF50シリーズ

**は画面サイズを示す

注意：パナソニック株式会社製プロジェクターおよびディスプレイ全機種について動作を保証するものではありません。上記以外の機種については、通信条件・フォーマット・制御コマンドが上記機種と互換性があるかをご確認ください。

0 dBu=0.775 Vrms、0 dBV=1 Vrms

入力仕様

映像

名称	信号形式	定格入力レベル	入力インピーダンス	端子形状
AV入力1	RGB	映像信号：0.7 V [P-P] 同期信号：TTLレベル	映像信号：75 Ω	高密度Dサブ15ピン (メス) コネクター
AV入力2・3	RGB または色差ビデオ	[RGB] 映像信号：0.7 V [P-P] 同期信号：TTLレベル [色差ビデオ] 輝度信号：1 V [P-P] 色差信号：0.7 V [P-P]	[RGB] 映像信号：75 Ω [色差ビデオ] 輝度信号：75 Ω 色差信号：75 Ω	高密度Dサブ15ピン (メス) コネクター
AV入力4~6	ビデオ	1 V [P-P]	75 Ω	RCAピンジャック

音声

名称	信号形式	定格入力レベル	入力インピーダンス	端子形状
AV入力1	ステレオ	-20 dBV / -10 dBV / 0 dBV 切換式	10 kΩ (不平衡)	φ3.5 mm ステレオミニジャック
AV入力2~6	ステレオ	-20 dBV / -10 dBV / 0 dBV 切換式	10 kΩ (不平衡)	RCAピンジャック
マイク入力1	モノラル	-54 dBu (マイク) +4 dBu (ライン) 切換式	5 kΩ (平衡) 10 kΩ (平衡)	XLR3ピン (メス)
マイク入力2	モノラル	-54 dBu	5 kΩ (平衡)	XLR3ピン (メス)
前面マイク入力	モノラル	-54 dBu	5 kΩ (平衡)	大型複式ジャック
ライン入力1・2	ステレオ	-10 dBV	10 kΩ (不平衡)	RCAピンジャック
ワイヤレスマイク入力	モノラル	-20 dBV	10 kΩ (不平衡)	RCAピンジャック

出力仕様

映像

名称	信号形式	定格出力レベル	適合負荷インピーダンス	端子形状
映像出力A・B (2分配出力)	RGB または色差ビデオ ビデオ	映像信号：0.7 V [P-P] 同期信号：TTLレベル 1 V [P-P]	映像信号：75 Ω 75 Ω	高密度Dサブ15ピン (メス) コネクター BNCコネクター

音声

名称	信号形式	定格出力レベル	適合負荷インピーダンス	端子形状
音声出力1	モノラル	+4 dBu	10 kΩ以上 (平衡)	XLR3ピン (オス)
音声出力2	ステレオ			コネクター
録音出力	ステレオ	-10 dBV	10 kΩ以上 (不平衡)	RCAピンジャック

制御

名称	仕様	端子形状
プロジェクター / ディスプレイ 制御	RS-232C パラレル オープンコレクタ出力、 耐電圧：30 VDC、制御電流：15 mA以下	Dサブ9ピン (オス) Dサブ9ピン (メス)
外部機器制御	電源制御出力 スイッチ接点・フォトカプラー並列出力、 耐電圧：30 VDC、制御電流：30 mA以下 リモート1~3 出力 スイッチ接点出力、 耐電圧：30 VDC、制御電流：1 A以下	M3ねじ端子台 (8極)

保証とアフターサービス

よくお読みください

使いかた・お手入れ・修理などは

■まず、お買い求め先へご相談ください

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名	
電 話	() -
お買い上げ日	年 月 日

修理を依頼されるときは

42～45ページの表に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源を切り、お買い上げの販売店へご連絡ください。

- | | |
|--------|-----------|
| ●製品名 | AVコントローラー |
| ●品 番 | WZ-AV601 |
| ●故障の状況 | できるだけ具体的に |

●保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。

※修理料金は次の内容で構成されています。

技術料 診断・修理・調整・点検などの費用

部品代 部品および補助材料代

出張料 技術者を派遣する費用

※補修用性能部品の保有期間 **7年**

当社は、本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後7年保有しています。

アフターサービスについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店または保証書表面に記載されています連絡先へお問い合わせください。

長期間使用に関するお願い

安全にお使いいただくために、販売店または施工業者による定期的な点検をお願いします。

本機を長年お使いの場合、外観上は異常がなくても、使用環境によっては部品が劣化している可能性があり、故障したり、事故につながることもあります。

下記のような状態ではないか、日常的に確認してください。

特に10年を超えてお使いの場合は、定期的な点検回数を増やすとともに買い換えの検討をお願いします。

詳しくは、販売店または施工業者に相談してください。

このような状態ではありませんか？

- 煙が出たり、こげくさいにおいや異常な音がする。
- 電源コード・電源プラグ・ACアダプターが異常に熱い。または割れやキズがある。
- 製品に触るとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても、映像や音*が出てこない。
- その他の異常・故障がある。

直ちに使用を中止してください

故障や事故防止のため、電源を切り、必ず販売店または施工業者に点検や撤去を依頼してください。

※：音声対応していないモデルもあります。

■使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■その他ご不明な点は下記へご相談ください。

パナソニック システムお客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル  **0120-878-410** バ ナ ハ ヨ イ フ 受付：9時～17時30分（土・日・祝祭日は受付のみ）
※携帯電話・PHSからもご利用になります。

ホームページからのお問い合わせは <https://sec.panasonic.biz/solution/info/>

ご使用の回線（IP電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただきます。ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック システムネットワークス株式会社

〒812-8531 福岡市博多区美野島四丁目1番62号